教科名	国語	科目名	論理国語	単位数	2
対象学年 学科・コース	第３学年普通科 特別進学コース	履修形態	必修	授業形態	講義

学習の到達目標		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力
論理的文章の読解に必要な言語事項を総合的に学習し、国語に関する知識を深める。	多様な見方、考え方に触れ、物事を総合的に捉える力を培うとともに、自らの考えを論理的に表現する。	自ら学び考える意欲を喚起して、主体的に生きていく力をはぐくむ。

学習内容の概要	教科書掲載の説明的文章を読むことを通して、読解の方法を学ぶとともに、自己の考えを論理的に表現する力を養う。
評価の観点・評価方法	規定に従い、定期考査および平常点等を「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の３観点で評価を行う。
使用教材	三省堂　『精選　論理国語』

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標
4	「情報社会」を生きるII	「情報ネットワーク社会」 「疑似群衆の時代」	6	思考力と対比して論理力とは何かを考える。
5	言葉を見つめるII	「夢は何語で見る？」 「『対話』の言葉をつくる」	6	論理の組み立てと文章構成の関係について理解する。 情報の「メタ化」を理解し、思考を整理する方法を考える。
6	共生社会を想像する	「母親のための酸素マスク」 講演　持続可能な福祉社会への道	8	都市生活における事故と他者の関係について考える。 情報の階層化が進む中で「言論の自由」の意味について考える。
7	経済について考える	「『私』消え、止まらぬ連鎖」 「落語の中の経済学」	8	「情報の商品化」という資本主義の現象を理解する。
8	国際社会を考える	「スポーツとナショナリズム」	3	情報社会を生きる上で大切なことは何か考え、発表する。
9 10 11 12	共通テスト対策	自主教材を用いて共通テスト対策を行う。	29	共通テストで得点率７０％以上を取ることを目指す。
1 2 3	２次・個別試験対策	自主教材を用いて２次個別試験対策を行う。	12	志望校合格を目指す。

教科名	国語	科目名	論理国語	単位数	2
対象学年 学科・コース	第3学年普通科 進学コース	履修形態	必修	授業形態	講義

学習の到達目標		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力
論理的文章の読解に必要な言語事項を総合的に学習し、国語に関する知識を深める。	多様な見方、考え方に触れ、物事を総合的に捉える力を培うとともに、自らの考えを論理的に表現する。	自ら学び考える意欲を喚起して、主体的に生きていく力をはぐくむ。

学習内容の概要	教科書掲載の説明的文章を読むことを通して、読解の方法を学ぶとともに、自己の考えを論理的に表現する力を養う。また、漢字の学習を通して基本的な語彙を学ぶ。
評価の観点・評価方法	規定に従い、定期考査および平常点等を「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の３観点で評価を行う。
使用教材	三省堂『新　論理国語』、尚文出版『常用漢字クリア』

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標
4	具体と抽象の関係を理解するために	「人類による環境への影響」	6	具体と抽象の関係を理解する 。
5		「この十年をどう生きるか」	6	物事を多角的に考える。
6		「プラスチックごみについて考える」 「説得力のある文章を書く」	8	情報を相対化し、自分の考えを形成する。 考えを相対化する。
7	批評するために	「〈自動車〉と〈映像〉の二十世紀」 「言語ゲームと哲学的態度」	8	取り上げられた事例の長さ、順序について批評する。 例証の具体を読む。
8		「日本漫画のブルーオーシャン戦略」	3	読者を想定した事例の効果を検証する。
9		「報告文を書く」 「ミロのヴィーナス」	7	報告文を書く。 抽象概念を言語化した文章を読解し、その内容を自分なりの言葉に置き換えて説明する。
10	情報を関連付け自分の解釈を形成するために	「学びとは何か」 「『知る』ということ」	8	事例同士を関連付けて筆者の主張を読む。 言葉の意味を捉え直し、自分の考えを深める。
11		「文系と理系の壁はあるか」 「自己推薦文を書く」	8	自らの体験を事例として説明することの意味を分析する。 分析して修正する。
12	解釈を広げたり深めたりするために	「科学には限界があるか」	6	納得できる論証を構築する。
1		「未来のありか」	6	論の形成の仕方について考える。
2		「リスク社会論』	4	文章の構成や展開、表現の仕方について吟味する。
3		「卒業論文を書く」	2	表現力を駆使する。

教科名	国語	科目名	論理国語	単位数	2
対象学年 学科・コース	第３学年普通科 総合選択コース	履修形態	必修	授業形態	講義

学習の到達目標		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力
論理的文章の読解に必要な言語事項を総合的に学習し、国語に関する知識を深める。	多様な見方、考え方に触れ、物事を総合的に捉える力を培うとともに、自らの考えを論理的に表現する。	自ら学び考える意欲を喚起して、主体的に生きていく力をはぐくむ。

学習内容の概要	教科書掲載の説明的文章を読むことを通して、読解の方法を学ぶとともに、自己の考えを論理的に表現する力を養う。また、漢字の学習を通して基本的な語彙を学ぶ。
評価の観点・評価方法	規定に従い、定期考査および平常点等を「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の３観点で評価を行う。
使用教材	三省堂『新　論理国語』、桐原書店『改訂版　楽しく書ける作文・小論文６００』

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標
4	具体と抽象の関係を理解するために	「人類による環境への影響」	6	具体と抽象の関係を理解する 。
5		「この十年をどう生きるか」	6	多様な視点で物事を捉える。
6		「プラスチックごみについて考える」 「説得力のある文章を書く」	8	情報を相対化し、自分の考えを形成する。 考えを相対化する。
7	批評するために	「〈自動車〉と〈映像〉の二十世紀」 「言語ゲームと哲学的態度」	8	取り上げられた事例の長さ、順序について批評する。 例証の具体を読む。
8		「日本漫画のブルーオーシャン戦略」	3	読者を想定した事例の効果を検証する。
9		「報告文を書く」 「ミロのヴィーナス」	7	報告文を書く。 抽象概念を言語化した文章を読解し、その内容を自分なりの言葉に置き換えて説明する。
10	情報を関連付け自分の解釈を形成するために	「学びとは何か」 「『知る』ということ」	8	事例同士を関連付けて筆者の主張を読む。 言葉の意味を捉え直し、自分の考えを深める。
11		「文系と理系の壁はあるか」 「自己推薦文を書く」	8	自らの体験を事例として説明することの意味を分析する。 分析して修正する。
12	解釈を広げたり深めたりするために	「科学には限界があるか」	6	納得できる論証を構築する。
1		「未来のありか」	6	論の形成の仕方について考える。
2		「リスク社会論』	4	文章の構成や展開、表現の仕方について吟味する。
3		「卒業論文を書く」	2	表現力を駆使する。

教科名	国語	科目名	文学国語	単位数	2
対象学年 学科・コース	３年特別進学コース αβ文系	履修形態	必修	授業形態	講義

学習の到達目標		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力
文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴、修辞などの表現の技法について理解を深め、語彙を豊かにする。	文章の種類をふまえて、内容や構成・展開・描写の仕方などを的確にとらえるとともに、自己の考えを深め表現できる。	作品の内容や解釈をふまえ、人間・社会・自然などに対するものの見方・感じ方・考え方を深める。

学習内容の概要	教科書掲載の文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深める。語彙や修辞法の知識を深め、自己の考えを深め表現する力を身につける。
評価の観点・評価方法	規定に従い、定期考査および平常点等を「知識・技能」・「思考・判断・表現」・「主体的に学習に取り組む態度」の３観点で評価を行う。
使用教材	三省堂　精選　文学国語

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標
4	第二部 小説(一)	「鞄」	6	小説の形式や表現の特色に注意して、登場人物の言動や心情を理解し、「鞄」の持つ象徴的意味について考える。
5	詩歌	「永訣の朝」 「渡り鳥」俳句十五句	6	表現形式や修辞の効果に着目し、理解を深める。 俳句に詠まれた情景や感動の中心を理解する。
6	小説(二)	「靴の話」	8	「事実」という言葉を手がかりに「私」の戦争体験を理解し、戦争の記憶を語り継ぐことの意義を考える。
7	小説(二)	「夏の花」	8	「私」が目撃した事実の諸相を時系列にしたがって整理し、物語の展開・構造・「私」の心情を理解する。
8	翻訳の言葉	「雪国の謎」ー夜の底とは何か	2	欧米圏の言語の持つ特徴と比較することで日本語の文章上の特徴を理解する。
9	翻訳の言葉	「雪国の謎」ー夜の底とは何か	8	日本語の原作と英語訳の表現の違いが、言語の性質によるものではなく「主観的」と「客観的」、「具象」と「抽象」という様式の違いによることを理解する。
10	翻訳の言葉	「涙の贈り物」	8	翻訳小説の魅力を味わう。表現の特色に注意して、登場人物の言動や心情を理解し作品が自分たちに投げかけている問題について考える。
11	小説(三)	「檸檬」	8	前半に描かれる、青年期特有の憂鬱な心情を、「私」の生活の様子とともに追究する。
12	小説(三)	「檸檬」	6	後半に描かれる、「私」が「檸檬」を手に入れることで始まる憂鬱からの解放を理解する。
1	評論	「陰翳礼賛」	6	漆器や料理を具体例とした、日本の文化に関する筆者の考えを理解する。
2	受験対策	特別授業	5	志望校合格を目指して受験対策をする。
3	受験対策	特別授業	1	志望校合格を目指して受験対策をする。

教科名	国語	科目名	文学国語	単位数	2
対象学年 学科・コース	第３学年普通科 総合選択コース	履修形態	必修	授業形態	講義

学習の到達目標		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力
文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴、修辞などの表現の技法について理解を深め、語彙を豊かにする。	文章の種類をふまえて、内容や構成・展開・描写の仕方などを的確にとらえるとともに、自己の考えを深め表現できる。	作品の内容や解釈をふまえ、人間・社会・自然などに対するものの見方・感じ方・考え方を深める。

学習内容の概要	教科書掲載の文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深める。語彙や修辞法の知識を深め、自己の考えを深め表現する力を身につける。
評価の観点・評価方法	規定に従い、定期考査および平常点等を「知識・技能」・「思考・判断・表現」・「主体的に学習に取り組む態度」の３観点で評価を行う。
使用教材	三省堂『新　文学国語』

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標
4	文学の想像力を捉える	「月火水木金土日」	6	現実と非現実の境界を意識して読む。
5		「源氏物語」	6	古典文学の魅力と向き合い、理解する。
6	言語文化の可能性を追求する	「鞄」 「竹取物語」	8	読みをほかの方法で表現する。 作品とメディアについて考える。
7	時代を超えて生きる古典文学を温ねる	「雨月物語」 「方丈記」	8	人間に対する考え方を深める。 自然に対する見方を深める。
8		「古譚」	3	社会に対する見方を深める。
9		「『虫めづる姫君』の観察眼」	7	文学から世界への見方を深める。
10	空間を越えて生きる翻訳文学の価値を見つける	「星の王子さま」 「藤野先生」	8	人間についての考え方を深める。 社会とのつながりについて考えを深める。
11		「ナガサキの郵便配達」 「意見・主張型小論文を書く」	8	人類に共有される課題について考えを深める。 自分の考えに対する根拠を検討し、小論文にまとめる。
12	自分と未来をつなぐ文学の魅力を探る	「山椒魚」 「珊瑚のリング」	6	人間のもつ本性について考える。 人間の存在について考える。
1		「旅する本」	5	人生の未来図について考える。
2		「文学の未来」	4	言葉を通してつながることについて考える。
3		「企画・提案型小論文を書く」	3	自分の企画・提案内容を検討し、小論文にまとめる。

教科名	国語	科目名	古典探究	単位数	3
対象学年 学科・コース	第３学年普通科 特別進学コース	履修形態	必修	授業形態	講義

学習の到達目標		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力
古典を学ぶことをとおして、生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付ける。	先人のものの見方、感じ方、考え方に触れ、自分の思いや考えを広めたり、深めたりすることができる。	上代から現代に至る多様な話題・題材を読むことを通して国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。

学習内容の概要	教科書・板書を中心に講義を進める。音読を重視し、また必要に応じて内容理解のためのプリントを配布して補足したり、プリント等による問題演習や口頭での発表を通じて理解を深めさせるよう考慮する。
評価の観点・評価方法	規定に従い、定期考査および平常点等を「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の３観点で評価を行う。
使用教材	大修館書店　『精選　古典探究』

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標
4	説話	源義家、衣川にて阿倍貞任と連歌のこと	9	古人の豊かな情操にふれ、我が国の伝統的な言語文化を尊重する態度を涵養する。
5	故事・説話	水魚の交はり	9	当時の時代背景や地理などの幅広い知識と真理を求める態度を養う。
6	物語	虫めづる姫君	12	古人の豊かな情操にふれる。
7	史伝	刎頸の交はり	12	歴史上実在する人物の生き方を通じて、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う。
8	日記	和泉式部と清少納言	6	古典に関する幅広い知識を身に付け、豊かな情操を培うとともに、我が国の言語文化を養う。
9 10 11 12	共通テスト対策	自主教材を用いて共通テスト対策を行う。	36	共通テストで得点率７０％以上を取ることを目指す。
1 2 3	個別試験対策	自主教材を用いて個別試験対策を行う。	24	志望校合格を目指す。

教科名	国語	科目名	古典探究	単位数	2
対象学年 学科・コース	第3学年普通科 進学コース	履修形態	必修	授業形態	講義

学習の到達目標		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力
古典を学ぶことをとおして、生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付ける。	先人のものの見方、感じ方、考え方に触れ、自分の思いや考えを広めたり、深めたりすることができる。	上代から現代に至る多様な話題・題材を読むことを通して国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。

学習内容の概要	教科書・板書を中心に講義を進める。音読を重視し、また必要に応じて内容理解のためのプリントを配布して補足したり、プリント等による問題演習や口頭での発表を通じて理解を深めさせるよう考慮する。
評価の観点・評価方法	規定に従い、定期考査および平常点等を「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の３観点で評価を行う。
使用教材	大修館書店　『精選　古典探究』

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標
4	説話	源義家、衣川にて阿倍貞任と連歌のこと	6	古人の豊かな情操にふれ、我が国の伝統的な言語文化を尊重する態度を涵養する。
5	故事・説話	水魚の交はり	6	当時の時代背景や地理などの幅広い知識と真理を求める態度を養う。
6	物語	虫めづる姫君	8	古人の豊かな情操にふれる。
7	史伝	刎頸の交はり	8	歴史上実在する人物の生き方を通じて、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う。
8	日記	和泉式部と清少納言	3	古典に関する幅広い知識を身に付け、豊かな情操を培うとともに、我が国の言語文化を養う。
9	思想	暴虎馮河	7	主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う。
10	物語	葵上と物の怪 須磨の秋	8	我が国の伝統的な言語文化を尊重する態度を涵養する。
11	長恨歌と日本の文学	概説 長恨歌	8	他国の文化を尊重するとともに、我が国の伝統文化への興味・関心を喚起して理解を深める。
12	物語	浅茅が宿	6	古典作品を多角的にとらえ、古代より現代まで続く言語文化について自分の考えを広げたり深めたりする。
1	個別試験対策	自主教材を用いて個別試験対策を行う。	12	志望校合格を目指す。
2				
3				

教科名	地理歴史科	科目名	地理探究	単位数	5
対象学年 学科・コース	第３学年 普通科特別進学コースαβ	履修形態	必修科目	授業形態	【講義】

学習の到達目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力
・地理的な空間において社会に参画し，他者と協働するための前提となる基本的な知識を獲得する。	・地理的観点から空間と人間との関わり，個人の尊厳と自主・自律，人間と社会の多様性と共通性などに着目して、当事者として国家・社会などの地理的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し，表現している。	・近代・現代の社会とそこにおける人間のあり方について関心をもち，自身にひきつけて思考しようとする。 ・選択・判断の手掛かりとなる考え方を理解し身につけようとしている。

学習内容の概要	「現代世界の地理的諸課題を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に生きる日本人としての自覚と資質を養う」という指導要領に示された目標が本科目の目標である。
評価の観点・評価方法	1）知識・技能…定期テストの得点率（80%）、小テストの得点率（20%） 2）思考・判断・表現…定期テストの得点率（80%）、小テストの得点率（20%） 3）主体的に学習に取り組む態度…課題に取り組む態度（10点）、イ）授業態度（10点）
使用教材	帝国書院　新詳地理探究

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標 ①＝知識・技能　②＝思考・判断・表現　③＝主体的に学習に取り組む態度
4	第1部　地図でとらえる現代世界 第1章　地図と地理情報システム 1節　地球上の位置と時差 2節　地図の役割と種類	1　地球上の位置と私たちの生活 2　時差と私たちの生活 1　地球儀と地図 2　身の回りの地図	15	①地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解している。 ②位置や範囲，縮尺などに着目して，目的や用途，内容，適切な活用の仕方などを多面的・多角的に考察し，表現している。
5	第2章　結び付きを深める現代世界 1節　現代世界の国家と領域 2節　グローバル化する世界	1　現代世界の国家 2　日本の位置や領域 1　国家間の結び付き	20	①方位や時差，日本の位置と領域，国内や国家間の結び付きについて理解している。 ②現代世界の地域構成について，多面的・多角的に考察し，表現している。
6	第2部　国際理解と国際協力 第1章　生活文化の多様性と国際理解 1節　世界の地形と人々の生活 2節　世界の気候と人々の生活	1　大地形と人々の生活 2　変動帯と人々の生活 1　気温・降水と人々の生活 2　大気大循環と人々の生活	15	①世界の人々の特色ある生活文化を基に，自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解している。 ③生活文化の多様性と国際理解について，よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究，解決しようとしている。
7	乾燥した大陸と太平洋の島々での生活　－オセアニア－ モンスーンの影響を受ける地域での生活　-東南アジア-	1　人々をひきつける多様な自然環境 2　自然環境を生かした産業と人々の生活 1　モンスーンの影響を受けてきた人々の生活 2　気候を生かした農業と人々の生活	20	①地域によって大きく異なる気候について理解している。 ②多面的・多角的に考察し，表現している。 ③よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究，解決しようとしている。
8	3節　世界の言語・宗教と人々の生活	1　世界の言語と人々の生活文化 2　世界の宗教と人々の生活文化	5	①言語と民族の関わり，公用語と人々の生活への影響について理解している。 ②多面的・多角的に考察し，表現している。 ③よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究，解決しようとしている。
9	4節　歴史的背景と人々の生活 移民の歴史と人々の生活の関わり－ラテンアメリカ- 植民地支配の歴史と人々の生活の関わり　-サハラ以南アフリカ-	1　ヨーロッパ社会の影響が強い文化 2　大土地所有制が生み出した社会構造 3　外国資本による工業化と生活の変化	15	①歴史と人々の生活文化への影響について理解している。 ②人々の生活文化への影響について，多面的・多角的に考察し，表現している。 ③歴史と人々の生活文化への影響について，よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究，解決しようとしている。
10	国家体制の変化と人々の生活の関わり　-ロシア- 5節　世界の産業と人々の生活	1　国家体制の変化が人々の生活に与えた影響 2　変化するロシアの産業	15	①歴史と人々の生活文化への影響について理解している。 ②生活文化への影響について，多面的・多角的に考察し，表現している。 ③歴史と人々の生活文化への影響について，よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究，解決しようとしている。
11	産業力が世界の生活文化に与える影響　-アメリカ合衆国- 経済成長による人々の生活の変化-東アジア-	1　世界に大きな影響力をもつ知識産業と資源 2　世界の食卓に影響を与える農業 3　産業の発展を支えてきた移民の力	15	①歴史と人々の生活文化への影響について理解している。 ②生活文化への影響について，多面的・多角的に考察し，表現している。 ③歴史と人々の生活文化への影響について，よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究，解決しようとしている。
12	地域統合が人々の生活や産業に与える影響　-ヨーロッパ- 第2章　地球的課題と国際協力	1　EU統合と人々の生活 2　EU統合による農業への影響 3　EU統合による工業や社会への影響	15	①歴史と人々の生活文化への影響について理解している。 ②生活文化への影響について，多面的・多角的に考察し，表現している。 ③歴史と人々の生活文化への影響について，よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究，解決しようとしている。
1	第2章　地球的課題と国際協力 1節　複雑に絡み合う地球的課題 2節　地球環境問題	1　多様な地球環境問題 2　熱帯林の破壊への対策 3　地球温暖化への対策	15	①地球的課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて大観し理解している。 ②主題を設定し，現状や要因，解決の方向性などを多面的・多角的に考察し，表現している。
2	3節　資源・エネルギー問題 4節　人口問題 5節　食料問題 6節　都市・居住問題	1　世界のエネルギー・鉱産資源 2　エネルギー利用の現状と課題 3　地域で異なるエネルギー問題への取り組み	15	①国によって異なる電力構成，鉱産資源の利用について理解している。 ②鉱産資源の利用について，多面的・多角的に考察し，表現している。 ③よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究，解決しようとしている。
3	第3部　持続可能な地域づくりと私たち 第1章　自然環境と防災	1　日本の地形 2　日本の気候	15	①各種の地理情報について，その情報を収集し，読み取り，まとめる地理的技能を身に付けている。 ②地域の共通点や差異，持続可能な地域づくりなどに着目して，主題を設定し，自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し，表現している。

教科名	地理歴史科	科目名	日本史探究Ⅱ	単位数	5単位
対象学年 学科・コース	第3学年 普通科特別進学αβ	履修形態	必修	授業形態	講義

学習の到達目標		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力
日本史の展開に関わる諸事象を地理的要件、世界の動向と関連づけながら理解する。史料、統計を活用できる。	日本史の展開に関わる諸事象を世界史のそれと比較検討し、その歴史的特色を考察できる。	現代社会が抱える諸課題の解決に向けて、歴史的背景や成り立ちを踏まえて取り組む姿勢を涵養する。

学習内容の概要	主として近世より現代までの通史を理解する。各事象の発生要因や因果関係、相関性を重視し、論理的思考を養う。
評価の観点・評価方法	①小テスト、②ノート点検、③定期考査、④授業における発問への回答、主体的に学習に取り組む姿勢などから総合的に評価する。
使用教材	『詳説日本史』（山川出版社、日探705）及び授業者作成資料

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標
4	第9章幕藩体制の成立と展開	1．幕藩体制の基本構造 2．幕政の安定 3．経済の発展	15	幕藩体制の基本構造を総合的に理解するとともに、武断政治から文治政治への政策転換の意義を理解する。
5	第10章幕藩体制の動揺	4．元禄文化 1．幕政の改革 2．宝暦・天明期の文化	15	江戸時代中期の社会構造の動揺、政治課題とそれに対する政治改革の基本政策を比較検討する。
6	第11章近世から近代へ	3．化政文化 1．開国と幕末の動乱	20	化政文化を概観しその特徴を理解する。社会の動揺と列強の接近による「内憂外患」の状態を正確に理解する。
7	第12章近代国家の成立	2．幕府滅亡と新政府発足 1．明治維新と富国強兵 2．立憲国家の成立	15	明治政府による諸改革を概観するとともに、自由民権運動から憲法制定へと至る複雑な歴史の移り変わりを理解する。
8	第13章近代国家の展開	1．日清・日露戦争	5	明治政府による初の対外戦争の開戦から講和に至る経緯とその影響について理解する。
9		2．第一次世界大戦と日本 3．ワシントン体制	20	第一次世界大戦が日本に与えた影響と協調外交から強硬外交への転換へと至った経緯を理解する。
10	第14章近代の産業と生活 第15第二次世界大戦	1．近代産業・大衆文化の発達 1．恐慌の時代	20	社会運動の盛り上がりと軍部の台頭について、社会の動揺と植民地政策を関連付けて理解する。
11	第16章戦後の日本	2．第二次世界大戦 1．占領下の日本 2．高度経済成長	20	第二次世界大戦の開戦から終戦までの経過を理解する。また戦後史について政治経済の視点から理解する。
12	共通テスト対策	3．冷戦の終結と社会の変容	15	戦後史を政治・経済の内容を踏まえて理解する。 共通テストを見据えて通史の要点を整理し、過去問題などの問題演習を行う。
1	共通テスト対策 私大受験対策		15	択一式問題への対応をめざす。
2	私大受験対策 国公立大2次試験対策		20	記述式問題への対応をめざす。
3	国公立大2次試験対策			

教科名	地歴公民科	科目名	日本史探究Ⅱ	単位数	5
対象学年 学科・コース	第3学年 普通科進学コース	履修形態	必修科目	授業形態	講義

学習の到達目標		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力
日本史の展開に関わる諸事象を地理的・世界史的条件と関連づけながら理解する。諸資料も有効活用できるようにする。	日本史の展開に関わる事象を世界史と比較し、歴史的特色を把握する。学習を通して課題を把握し解決に向かう力を養う。	「すべての歴史は現代史であ」（クローチェ）り、私たちが直面する課題を見据え、自他の歴史を尊重する力を養う。

学習内容の概要	①近世日本史、②近現代日本史、③歴史総合との関わりを追究する。
評価の観点・評価方法	課題・ノート点検、小テスト・定期考査を実施し、総合的に評価する。
使用教材	教科書『詳説日本史』・授業者作成文化史問題集

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標
4	第3部　近世　第８章 1.織豊政権 2.桃山文化	1.戦国大名の登場（復習） 織豊政権と「天下」統一 2.桃山文化	15	「大航海時代と宗教改革」を概観し、織豊政権との関連を考える。「天下」の内実を分析し、「天下」統一の意味を明らかにする。桃山文化を概観する。
5	第9章 幕藩体制の成立 1.幕藩体制の成立 2.幕藩体制の構造	1.幕藩体制の基本構造 組織・法令・外交 2.寛永期の文化	20	関ケ原の戦いのち成立した幕藩体制の特質を明らかにする。特に外交政策について、「鎖国」体制の完成まで年表形式で内容を理解する。寛永期文化を概観する。
6	第9章 3.幕政の安定 4.経済の発展 5.元禄文化	3.平和と秩序の重視 4.農業・諸産業・五街道 5.文学・儒学・美術	15	武断政治から文治政治への転換を、将軍ごとにその政策とともに明らかにする。本百姓体制に基づく流通・安定を概観する。文化は特に儒学者系統図を活用する。
7	第10章 幕藩体制の動揺 1.幕政の改革 3.幕府の衰退と近代の道	1. 2. 3.改革と百姓一揆 4.化政文化	20	享保の改革から天保の改革まで、改革者とその政策を概観する。幕藩体制の動揺については、商品貨幣の流入による本百姓体制の困難化・国学の発展で対応する。
8	第10章 3.続き 鎖国の動揺	3.列強の接近	5	1792年ラクスマンの根室来航から1853年ペリーの浦賀来航まで年表形式で内容を理解する。北方探査について蝦夷地・千島・樺太など地名・ルートを確認する。
9	第11章 近世から近代へ 1.開国と幕末の動乱 2.幕府の滅亡と新政府	1.ペリー来航・開港 2.戊辰戦争と新政府の発足	15	ペリー来航による開国とその影響を明らかにする。政治的には下級武士の登場、尊王論と討幕論が結合し尊王討幕派の結成、新政府樹立まで理解する。
10	第12章 近代国家の成立 1.明治維新と富国強兵 2.立憲国家の成立	1.富国強兵・殖産興業・ 文明開化 2.自由民権運動	20	欧米列強をモデルとしつつ天皇を中心とする国家形成について理解する。自由民権運動は天賦人権論の受容の問題点を明らかにする。
11	第13章 1.日清・日露戦争 2.第一次世界大戦 3.ワシントン体制	1.日清・日露戦争 2.日本の中国進出 3.協調主義と日本	20	明治内閣史を日清・日露戦争と関連付け理解する。日本のアジア進出について、拡大地域を順に明らかにしていく。協調外交を強硬外交との対比で明らかにする。
12	第14章 ・第15章 ・軍部の台頭 ・太平洋戦争	・満州事変、日中戦争 ・第二次世界大戦と太平洋戦争	15	満州事変以降の軍部台頭について、領土拡大との関連で明らかにする。近衛声明、日独伊三国同盟、ハル=ノートなど戦火・領土拡大の流れの中で理解する。
1	第16章 ・第17章・第18章 ・戦後史 ・共通テスト・私大対策	・占領政策・55年体制 高度経済成長 ・共通テスト・私大対策	15	戦後史について占領政策、55年体制、高度経済成長を軸として理解する。共通テスト対策として、歴史総合の内容もふまえ問題演習と解説を行う。
2	・私大対策 ・２次試験対策	・私大対策 ・２次試験対策	20	私大対策、２次試験対策を行う。過去問題の演習と解説を行う。
3				

教科名	地理歴史科	科目名	世界史探究Ⅱ	単位数	5
対象学年 学科・コース	第3学年 普通科特別進学コースαβ	履修形態	必修科目	授業形態	【講義】

学習の到達目標		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力
世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、考察、構想したことを効果的に説明したり、議論したりする力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養い、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

学習内容の概要	社会的現象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な資質・能力を育成する。
評価の観点・評価方法	1）知識・技能…定期テストの得点率（80%）、小テストの得点率（20%） 2）思考・判断・表現…定期テストの得点率（80%）、小テストの得点率（20%） 3）主体的に学習に取り組む態度…課題に取り組む態度（10点）、イ）授業態度（10点）
使用教材	世探704　世界史探究「詳説世界史」（山川出版社）

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標
4	第12章 産業革命と環大西洋革命	1 産業革命 2 アメリカ合衆国の独立と発展 3 フランス革命とナポレオンの支配	15	（知識・技能） 産業革命が18世紀後半のイギリスから始まった背景や技術革新の展開を理解している。
5	第13章 イギリスの優位と欧米国民国家の形成	1 ウィーン体制とヨーロッパの政治・社会の変動 2 列強体制の動揺とヨーロッパの再編成	15	（知識・技能）（主体的に学習に取り組む態度） ウィーン体制について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。
6	第14章 アジア諸地域の動揺	1 西アジア地域の変容 2 南アジア・東南アジアの植民地化	20	（知識・技能）（主体的に学習に取り組む態度） 西アジアの変容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。
7	第15章 帝国主義とアジアの民族運動	1 第2次産業革命と帝国主義 2 列強の世界分割と列強体制の二分化 3 アジア諸国の変革と民族運動	15	（知識・技能） 列強による世界分割がどのように進められたかや列強体制の変化について理解している。
8	第16章 第一次世界大戦と世界の変容	1 第一次世界大戦とロシア革命 2 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 3 アジア・アフリカ地域の民族運動	5	（知識・技能） 第一次世界大戦後に形成された国際秩序の内容やその特徴、その後の国際関係の変化について理解している。
9	第17章 第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成	1 世界恐慌とヴェルサイユ体制の破壊 2 第二次世界大戦 3 新しい国際秩序の形成	20	（知識・技能）（主体的に学習に取り組む態度） 世界恐慌やヴェルサイユ体制の崩壊について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、学習に取り組もうとしている。
10	第18章 冷戦と第三世界の台頭	1 冷戦の展開 2 第三世界の台頭とキューバ危機 3 冷戦体制の動揺	20	（知識・技能） 冷戦がどのように進展したのかを、各国の社会に与えた影響や核開発の動きなどとあわせて理解している。
11	第19章 冷戦の終結と今日の世界	1 産業構造の変容 2 冷戦の終結 3 今日の世界	20	1990年前後の各地の様子を写した図像資料などをもとに、さまざまな出来事と東西対立緩和の関係を多面的・多角的に考察し表現している。
12	地球世界の課題の探究	地球世界の課題の探究	15	（主体的に学習に取り組む態度） 地球世界の課題について、よりよい社会の実現を視野に、主体的に探究しようとしている。
1	共通テスト 2次試験対策	共通テスト、2次試験対策を行う。	15	2次試験対策を行う。
2	2次試験対策	2次試験対策を行う。	20	2次試験対策を行う。
3				

教科名	地理歴史科	科目名	世界史探究Ⅱ	単位数	5
対象学年 学科・コース	第3学年 普通科進学コース	履修形態	必修科目	授業形態	【講義】

学習の到達目標		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力
世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、考察、構想したことを効果的に説明したり、議論したりする力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養い、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

学習内容の概要	社会的現象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な資質・能力を育成する。
評価の観点・評価方法	1）知識・技能…定期テストの得点率（80%）、小テストの得点率（20%） 2）思考・判断・表現…定期テストの得点率（80%）、小テストの得点率（20%） 3）主体的に学習に取り組む態度…課題に取り組む態度（10点）、イ）授業態度（10点）
使用教材	世探704　世界史探究「詳説世界史」（山川出版社）

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標
4	第12章 産業革命と環大西洋革命	1 産業革命 2 アメリカ合衆国の独立と発展 3 フランス革命とナポレオンの支配	15	（知識・技能） 産業革命が18世紀後半のイギリスから始まった背景や技術革新の展開を理解している。
5	第13章 イギリスの優位と欧米国民国家の形成	1 ウィーン体制とヨーロッパの政治・社会の変動 2 列強体制の動揺とヨーロッパの再編成	15	（知識・技能）（主体的に学習に取り組む態度） ウィーン体制について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。
6	第14章 アジア諸地域の動揺	1 西アジア地域の変容 2 南アジア・東南アジアの植民地化	20	（知識・技能）（主体的に学習に取り組む態度） 西アジアの変容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。
7	第15章 帝国主義とアジアの民族運動	1 第2次産業革命と帝国主義 2 列強の世界分割と列強体制の二分化 3 アジア諸国の変革と民族運動	15	（知識・技能） 列強による世界分割がどのように進められたかや列強体制の変化について理解している。
8	第16章 第一次世界大戦と世界の変容	1 第一次世界大戦とロシア革命 2 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 3 アジア・アフリカ地域の民族運動	5	（知識・技能） 第一次世界大戦後に形成された国際秩序の内容やその特徴、その後の国際関係の変化について理解している。
9	第17章 第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成	1 世界恐慌とヴェルサイユ体制の破壊 2 第二次世界大戦 3 新しい国際秩序の形成	20	（知識・技能）（主体的に学習に取り組む態度） 世界恐慌やヴェルサイユ体制の崩壊について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、学習に取り組もうとしている。
10	第18章 冷戦と第三世界の台頭	1 冷戦の展開 2 第三世界の台頭とキューバ危機 3 冷戦体制の動揺	20	（知識・技能） 冷戦がどのように進展したのかを、各国の社会に与えた影響や核開発の動きなどとあわせて理解している。
11	第19章 冷戦の終結と今日の世界	1 産業構造の変容 2 冷戦の終結 3 今日の世界	20	1990年前後の各地の様子を写した図像資料などをもとに、さまざまな出来事と東西対立緩和の関係を多面的・多角的に考察し表現している。
12	地球世界の課題の探究	地球世界の課題の探究	15	（主体的に学習に取り組む態度） 地球世界の課題について、よりよい社会の実現を視野に、主体的に探究しようとしている。
1	共通テスト 2次試験対策	共通テスト、2次試験対策を行う。	15	2次試験対策を行う。
2	2次試験対策	2次試験対策を行う。	20	2次試験対策を行う。
3				

教科名	公民科	科目名	政治・経済	単位数	2
対象学年 学科・コース	第3学年 特別進学コースαβ	履修形態	必修科目	授業形態	【講義】

学習の到達目標		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力
・公共的な空間において社会に参画し，他者と協働するための前提となる，近代の民主政治の制度と基本原理に関する基本的な知識を獲得する。	・公共的な空間と人間との関わり，個人の尊厳と自主・自律，人間と社会の多様性と共通性などに着目して、当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し，表現している。	・近代・現代の社会とそこにおける人間のあり方について関心をもち，自身にひきつけて思考しようとする。 ・選択・判断の手掛かりとなる考え方を理解し身につけようとしている。

学習内容の概要	様々な理念を自身のことばで表現し，その特徴や課題を考えることができるように配慮する。また、「公共的な空間」としての社会にすでに参加しており，「自分たちの社会」に対する関心を深める。
評価の観点・評価方法	1）知識・技能…定期テストの得点率（80%）、小テストの得点率（20%） 2）思考・判断・表現…定期テストの得点率（80%）、小テストの得点率（20%） 3）主体的に学習に取り組む態度…課題に取り組む態度（10点）、授業態度（10点）
使用教材	数研出版　政治・経済・政治・経済整理ノート

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標
4	第3章公共的な空間における基本原理 第1節　民主社会の基本原理	1.民主政治の始まりと基本的人権の保障 2.権力分立と法の支配世界の主な政治体制 3.個人と社会とのかかわり	6	（思考・判断・表現） ・民主政治の原理について，具体的な事象と抽象的な理論の間を行き来し，論理的に思考できるようになる。
5	第2節　日本社会の基本原理	1.日本国憲法と基本原理 2.平等権・自由権 3.社会権・参政権・請求権 4　新しい人権・人権の国際的広がり	6	（主体的に学習に取り組む態度） ・自身が社会形成者・主権者となる見地から民主政治や人権保障に関心を深める。
6	第4章 現代の民主政治と政治参加の意義 第1節　日本の政治機構 第2節　政治参加と民主政治の課題	1.国会のしくみと役割 2.内閣のしくみと行政機構 3.日本の裁判制度と人権保障 4.司法参加の意義 1.選挙と選挙制度	4 4	（知識・技能） ・法や規範の意義及び役割，司法参加の意義などに関わる現実社会の事柄や課題を基に，権利や自由が保障，実現され，社会の秩序が形成，維持されていくことについて理解する。
7	第5章 現代の経済社会と経済活動のあり方 第1節　経済のしくみと市場機構 第2節　財政と金融	1.国民所得と経済成長 2.財政の役割 3.金融の役割 4.日本銀行と金融政策	3 3	（主体的に学習に取り組む態度） ・消費税や所得税などの税金の使途に関心が持てている。 ・超低金利が続く日本社会の現状について主体的に追究できている。
8	第3節　日本経済の発展と変化	1.日本経済のあゆみ 2.産業構造の変化と職業 3.中小企業と農業	6	（知識・技能） ・産業構造の変化と職業選択との関係や，中小企業や農業の果たしている役割と現状を理解できている。
9	第4節　豊かな生活と福祉の実現	1.経済社会とルール 2.消費者問題 3.公害対策と環境保全 4.労働者の権利 5.現代の労働問題 6.少子高齢社会における社会保障	8	（思考・判断・表現） ・雇用・労働問題や社会保障・福祉について課題を発見し，解決の方法を考察できている。
10	第1章 公共的な空間をつくる私たち 第1節　青年期と自己形成 第2節　人間としての自覚	1.青年期の意義と課題 2.自我の確立と自己形成 1.生きることと考えること 2.世界の宗教	4 4	（思考・判断・表現） •自らのキャリア形成とともによりよい社会の形成に結びつくことについて理解」している。
11	第3節　日本人としての自覚 第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方 第1節　西洋近現代の思想	1.日本の思想（仏教・儒学・国学） 2.日本の文化と西洋思想の受容 1.近代科学の考え方 2.人間の尊厳と幸福 3.現代の思想	3 3	（思考・判断・表現） ・得られた知識をもとに論点を整理し，その解決に向けた思考・判断ができるようになる。
12	第2節　現代の諸課題と倫理	1.地球環境をめぐる問題 2.資源・エネルギーをめぐる問題 3.生命をめぐる問題 4.情報をめぐる問題	6	（知識・技能） ・地球環境問題，資源・エネルギー問題，生命科学や情報技術の進展などの事象について理解できている。
1	第6章 国際社会の動向と日本の役割 第1節　国際政治の動向	1.国際社会と国際法 2.国際連合の成立と組織 3.国際連合の役割と課題 4.戦後の国際情勢	6	（思考・判断・表現） ・集団的安全保障がなぜ有効なのか考察できている。 ・国連の現状と課題について考察できている。
2	第2節　国際政治の課題と日本の役割	1.日本の安全保障と日米安保体制 2.軍縮への動き 3.現代の紛争 4.世界の人権問題と日本	3	（主体的に学習に取り組む態度） ・民族紛争や難民問題など国際政治問題について日常から関心を持てている。
3	第3節　国際経済の動向と国際協力	1.国際経済のしくみ 2.戦後の国際経済・国際貿易体制 3. 経済のグローバル化と現代の国際経済 4.地域経済統合 5.南北問題とその課題 6.国際社会における日本の役割	3	（知識・技能） ・貿易や外国為替相場について，そのしくみが理解できている。 ・戦後国際経済の流れが理解できている。

教科名	公民科	科目名	政治・経済	単位数	2
対象学年 学科・コース	第3学年 進学コース	履修形態	必修科目	授業形態	【講義】

学習の到達目標		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力
・公共的な空間において社会に参画し，他者と協働するための前提となる，近代の民主政治の制度と基本原理に関する基本的な知識を獲得する。	・公共的な空間と人間との関わり，個人の尊厳と自主・自律，人間と社会の多様性と共通性などに着目して、当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し，表現している。	・近代・現代の社会とそこにおける人間のあり方について関心をもち，自身にひきつけて思考しようとする。 ・選択・判断の手掛かりとなる考え方を理解し身につけようとしている。

学習内容の概要	様々な理念を自身のことばで表現し，その特徴や課題を考えることができるように配慮する。また、「公共的な空間」としての社会にすでに参加しており，「自分たちの社会」に対する関心を深める。
評価の観点・評価方法	1）知識・技能…定期テストの得点率（80%）、小テストの得点率（20%） 2）思考・判断・表現…定期テストの得点率（80%）、小テストの得点率（20%） 3）主体的に学習に取り組む態度…課題に取り組む態度（10点）、授業態度（10点）
使用教材	数研出版　政治・経済・政治・経済整理ノート

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標
4	第3章公共的な空間における基本原理 第1節　民主社会の基本原理	1.民主政治の始まりと基本的人権の保障 2.権力分立と法の支配世界の主な政治体制 3.個人と社会とのかかわり	6	（思考・判断・表現） ・民主政治の原理について，具体的な事象と抽象的な理論の間を行き来し，論理的に思考できるようになる。
5	第2節　日本社会の基本原理	1.日本国憲法と基本原理 2.平等権・自由権 3.社会権・参政権・請求権 4　新しい人権・人権の国際的広がり	6	（主体的に学習に取り組む態度） ・自身が社会形成者・主権者となる見地から民主政治や人権保障に関心を深める。
6	第4章 現代の民主政治と 政治参加の意義 第1節　日本の政治機構 第2節　政治参加と民主政治の課題	1.国会のしくみと役割 2.内閣のしくみと行政機構 3.日本の裁判制度と人権保障 4.司法参加の意義 1.選挙と選挙制度	4 4	（知識・技能） ・法や規範の意義及び役割，司法参加の意義などに関わる現実社会の事柄や課題を基に，権利や自由が保障，実現され，社会の秩序が形成，維持されていくことについて理解する。
7	第5章 現代の経済社会と 経済活動のあり方 第1節　経済のしくみと市場機構 第2節　財政と金融	1.国民所得と経済成長 2.財政の役割 3.金融の役割 4.日本銀行と金融政策	3 3	（主体的に学習に取り組む態度） ・消費税や所得税などの税金の使途に関心が持てている。 ・超低金利が続く日本社会の現状について主体的に追究できている。
8	第3節　日本経済の発展と変化	1.日本経済のあゆみ 2.産業構造の変化と職業 3.中小企業と農業	6	（知識・技能） ・産業構造の変化と職業選択との関係や，中小企業や農業の果たしている役割と現状を理解できている。
9	第4節　豊かな生活と福祉の実現	1.経済社会とルール 2.消費者問題 3.公害対策と環境保全 4.労働者の権利 5.現代の労働問題 6.少子高齢社会における社会保障	8	（思考・判断・表現） ・雇用・労働問題や社会保障・福祉について課題を発見し，解決の方法を考察できている。
10	第1章 公共的な空間をつくる私たち 第1節　青年期と自己形成 第2節　人間としての自覚	1.青年期の意義と課題 2.自我の確立と自己形成 1.生きることと考えること 2.世界の宗教	4 4	（思考・判断・表現） ・自らのキャリア形成とともによりよい社会の形成に結びつくことについて理解」している。
11	第3節　日本人としての自覚 第2章 公共的な空間における 人間としてのあり方生き方 第1節　西洋近現代の思想	1.日本の思想（仏教・儒学・国学） 2.日本の文化と西洋思想の受容 1.近代科学の考え方 2.人間の尊厳と幸福 3.現代の思想	3 3	（思考・判断・表現） ・得られた知識をもとに論点を整理し，その解決に向けた思考・判断ができるようになる。
12	第2節　現代の諸課題と倫理	1.地球環境をめぐる問題 2.資源・エネルギーをめぐる問題 3.生命をめぐる問題 4.情報をめぐる問題	6	（知識・技能） ・地球環境問題，資源・エネルギー問題，生命科学や情報技術の進展などの事象について理解できている。
1	第6章 国際社会の動向と 日本の役割 第1節　国際政治の動向	1.国際社会と国際法 2.国際連合の成立と組織 3.国際連合の役割と課題 4.戦後の国際情勢	6	（思考・判断・表現） ・集団的安全保障がなぜ有効なのか考察できている。 ・国連の現状と課題について考察できている。
2	第2節　国際政治の 課題と日本の役割	1.日本の安全保障と日米安保体制 2.軍縮への動き 3.現代の紛争 4.世界の人権問題と日本	3	（主体的に学習に取り組む態度） ・民族紛争や難民問題など国際政治問題について日常から関心を持てている。
3	第3節　国際経済の 動向と国際協力	1.国際経済のしくみ 2.戦後の国際経済・国際貿易体制 3. 経済のグローバル化と現代の国際経済 4.地域経済統合 5.南北問題とその課題 6.国際社会における日本の役割	3	（知識・技能） ・貿易や外国為替相場について，そのしくみが理解できている。 ・戦後国際経済の流れが理解できている。

教科名	公民科	科目名	政治・経済	単位数	2
対象学年 学科・コース	第3学年 総合選択コース	履修形態	必修科目	授業形態	【講義】

学習の到達目標		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力
・公共的な空間において社会に参画し，他者と協働するための前提となる，近代の民主政治の制度と基本原理に関する基本的な知識を獲得する。	・公共的な空間と人間との関わり，個人の尊厳と自主・自律，人間と社会の多様性と共通性などに着目して、当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し，表現している。	・近代・現代の社会とそこにおける人間のあり方について関心をもち，自身にひきつけて思考しようとする。 ・選択・判断の手掛かりとなる考え方を理解し身につけようとしている。

学習内容の概要	様々な理念を自身のことばで表現し，その特徴や課題を考えることができるように配慮する。また、「公共的な空間」としての社会にすでに参加しており，「自分たちの社会」に対する関心を深める。
評価の観点・評価方法	1）知識・技能…定期テストの得点率（80%）、小テストの得点率（20%） 2）思考・判断・表現…定期テストの得点率（80%）、小テストの得点率（20%） 3）主体的に学習に取り組む態度…課題に取り組む態度（10点）、授業態度（10点）
使用教材	数研出版　政治・経済・政治・経済整理ノート

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標
4	第3章公共的な空間における基本原理 第1節　民主社会の基本原理	1.民主政治の始まりと基本的人権の保障 2.権力分立と法の支配世界の主な政治体制 3.個人と社会とのかかわり	6	（思考・判断・表現） ・民主政治の原理について，具体的な事象と抽象的な理論の間を行き来し，論理的に思考できるようになる。
5	第2節　日本社会の基本原理	1.日本国憲法と基本原理 2.平等権・自由権 3.社会権・参政権・請求権 4　新しい人権・人権の国際的広がり	6	（主体的に学習に取り組む態度） ・自身が社会形成者・主権者となる見地から民主政治や人権保障に関心を深める。
6	第4章 現代の民主政治と 政治参加の意義 第1節　日本の政治機構 第2節　政治参加と民主政治の課題	1.国会のしくみと役割 2.内閣のしくみと行政機構 3.日本の裁判制度と人権保障 4.司法参加の意義 1.選挙と選挙制度	4 4	（知識・技能） ・法や規範の意義及び役割，司法参加の意義などに関わる現実社会の事柄や課題を基に，権利や自由が保障，実現され，社会の秩序が形成，維持されていくことについて理解する。
7	第5章 現代の経済社会と 経済活動のあり方 第1節　経済のしくみと市場機構 第2節　財政と金融	1.国民所得と経済成長 2.財政の役割 3.金融の役割 4.日本銀行と金融政策	3 3	（主体的に学習に取り組む態度） ・消費税や所得税などの税金の使途に関心が持てている。 ・超低金利が続く日本社会の現状について主体的に追究できている。
8	第3節　日本経済の発展と変化	1.日本経済のあゆみ 2.産業構造の変化と職業 3.中小企業と農業	6	（知識・技能） ・産業構造の変化と職業選択との関係や，中小企業や農業の果たしている役割と現状を理解できている。
9	第4節　豊かな生活と福祉の実現	1.経済社会とルール 2.消費者問題 3.公害対策と環境保全 4.労働者の権利 5.現代の労働問題 6.少子高齢社会における社会保障	8	（思考・判断・表現） ・雇用・労働問題や社会保障・福祉について課題を発見し，解決の方法を考察できている。
10	第1章 公共的な空間をつくる私たち 第1節　青年期と自己形成 第2節　人間としての自覚	1.青年期の意義と課題 2.自我の確立と自己形成 1.生きることと考えること 2.世界の宗教	4 4	（思考・判断・表現） ・自らのキャリア形成とともによりよい社会の形成に結びつくことについて理解」している。
11	第3節　日本人としての自覚 第2章 公共的な空間における 人間としてのあり方生き方 第1節　西洋近現代の思想	1.日本の思想（仏教・儒学・国学） 2.日本の文化と西洋思想の受容 1.近代科学の考え方 2.人間の尊厳と幸福 3.現代の思想	3 3	（思考・判断・表現） ・得られた知識をもとに論点を整理し，その解決に向けた思考・判断ができるようになる。
12	第2節　現代の諸課題と倫理	1.地球環境をめぐる問題 2.資源・エネルギーをめぐる問題 3.生命をめぐる問題 4.情報をめぐる問題	6	（知識・技能） ・地球環境問題，資源・エネルギー問題，生命科学や情報技術の進展などの事象について理解できている。
1	第6章 国際社会の動向と 日本の役割 第1節　国際政治の動向	1.国際社会と国際法 2.国際連合の成立と組織 3.国際連合の役割と課題 4.戦後の国際情勢	6	（思考・判断・表現） ・集団的安全保障がなぜ有効なのか考察できている。 ・国連の現状と課題について考察できている。
2	第2節　国際政治の 課題と日本の役割	1.日本の安全保障と日米安保体制 2.軍縮への動き 3.現代の紛争 4.世界の人権問題と日本	3	（主体的に学習に取り組む態度） ・民族紛争や難民問題など国際政治問題について日常から関心を持てている。
3	第3節　国際経済の 動向と国際協力	1.国際経済のしくみ 2.戦後の国際経済・国際貿易体制 3. 経済のグローバル化と現代の国際経済 4.地域経済統合 5.南北問題とその課題 6.国際社会における日本の役割	3	（知識・技能） ・貿易や外国為替相場について，そのしくみが理解できている。 ・戦後国際経済の流れが理解できている。

教科名	数学	科目名	数学Ⅲ	単位数	4
対象学年 学科・コース	第３学年普通科 特別進学コース（理系）	履修形態	必修	授業形態	講義

学習の到達目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力
数列の極限，関数とその極限，微分法，及び積分法における基本的な概念，原理・法則，用語・記号などを理解し，基礎的な知識を身に付ける。また，事象を数学化して数学的に解釈し，数学的に表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け，的確に問題を解決できる技能を身に付ける。	数学的な活動を通して，数列の極限，関数とその極限，微分法，及び積分法における数学を活用して事象を論理的に考察する力を身に付け，思考の過程を振り返り事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力や，数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付ける。	数学的な活動を通して，数列の極限，関数とその極限，微分法，及び積分法における考え方に関心・意欲をもつとともに，積極的に取り組み粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断し，問題解決の過程を振り返って考察を深め，評価・改善したりすることができる。

学習内容の概要	数列の極限，関数とその極限，微分法，積分法について，事象を数学的に考察したり多面的に捉える能力，習得した知識，習熟した技能を的確に活用する能力を伸ばすことを目指す。
評価の観点・評価方法	規定に従い，定期考査および平常点等を「知識・技能」，「思考・判断・表現」，「主体的に学習に取り組む態度」の３観点で評価を行う。
使用教材	啓林館「数学Ⅲα」，傍用問題集「アドバンス数学Ⅲ」，Libry

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標
4	第１章　数列の極限 第１節　無限数列	1　無限数列の極限 2　無限等比数列の極限	10	数列の極限，無限等比級数や一般の無限級数の収束・発散について理解し，それらを事象の考察に活用できるようになる。
5	第２節　無限級数	1　無限級数の収束・発散 2　無限等比級数の収束・発散 3　いろいろな無限級数	11	
	第２章　関数とその極限 第１節　分数関数と無理関数	1　分数関数 2　無理関数 3　逆関数と合成関数	5	関数の概念の理解を一層深め，いろいろな関数について，その関数値の極限を求める。また，関数の性質を考える上で重要になる関数の連続性を関連して扱い，それらを事象の考察に活用できるようになる。
6	第２節　関数の極限と連続性	1　関数の極限 2　いろいろな関数の極限 3　関数の連続性 4　連続関数の性質	16	
7	第３章　微分法 第１節　微分と導関数	1　微分可能と連続 2　微分と導関数 3　合成関数と逆関数の微分法	14	数学Ⅱで学んだことを更に発展させ，和・差・積・商および合成関数の微分法を扱い，初等関数の導関数について理解する。また，関数の増減やグラフの凹凸，速度と加速度などの考察を通して，微分法の有用性を認識させるとともに，具体的な事象の考察に活用できるようになる。
8 9	第２節　いろいろな関数の導関数	1　三角関数の導関数 2　対数関数・指数関数の導関数 3　高次導関数	18	
10	第３節　導関数と関数のグラフ	1　接線・法線の方程式 2　平均値の定理 3　関数の増減 4　第2次導関数とグラフ	16	
11	第４節　微分法の応用	1　最大・最小 2　方程式，不等式への応用 3　曲線の媒介変数表示と微分法 4　速度と加速度 5　関数の近似式	16	
12	第４章　積分法 第１節　不定積分 第２節　定積分	1　不定積分 2　置換積分法と部分積分法 3　いろいろな関数の不定積分 1　定積分 2　定積分で表された関数の微分 3　区分求積法と定積分	12	微分法と同様に，取り扱う関数の範囲を広げて積分法を考察する。積分の基本的な性質や置換積分法，部分積分法について理解し，これらの方法に習熟するとともに，その有用性を認識し，図形の面積や立体の体積，曲線の長さなどを求めることに活用できるようになる。
1	第３節　積分法の応用	1　面　積 2　体　積 3　曲線の長さ	10	
2	受験対策	個別指導を中心に行う。	16	国公立大2次試験に対応できる力を身に付ける。
3				

教科名	数学	科目名	数学C	単位数	1
対象学年 学科・コース	第３学年普通科 特別進学コース（文系）	履修形態	必修	授業形態	講義

学習の到達目標		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力
ベクトルについて理解するとともに，数学的な表現の工夫について認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	大きさと向きをもった量に着目し，演算法則やその図形的な意味を考察する力，図形や図形の構造に着目し，それらの性質を統合的・発展的に考察する力，数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

学習内容の概要	向きと大きさを持った量とその性質について学ぶ（平面上のベクトル・空間のベクトル）。
評価の観点・評価方法	規定に従い，定期考査および平常点等を「知識・技能」，「思考・判断・表現」，「主体的に学習に取り組む態度」の３観点で評価を行う。
使用教材	啓林館「数学Cα」，傍用問題集「マスグレード数学B+C」，Libry

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標
4	ベクトルの演習①	ベクトルとその演算	3	基礎・基本の確実な定着を目指す。
5		位置ベクトル	3	
6		空間ベクトル	3	
7	ベクトルの演習②	ベクトル分野共通テスト対策	4	ベクトルや内積の基本的な性質を用いて、平面図形や空間図形の性質を見出したり、多面的に考察することができる。また、数量や図形およびそれらの関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的にとらえて、ベクトルや内積の考えを用いて問題解決に向かうことができる。
8		ベクトル分野共通テスト対策	2	
9		ベクトル分野共通テスト対策	4	
10		ベクトル分野共通テスト対策	4	
11		ベクトル分野共通テスト対策	4	
12		ベクトル分野共通テスト対策	3	
1		ベクトル分野共通テスト対策	3	
2		ベクトル分野２次試験・私立大学対策	3	
3				

教科名	数学	科目名	数学C	単位数	2
対象学年 学科・コース	第３学年普通科 特別進学コース（理系）	履修形態	必修	授業形態	講義

学習の到達目標		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力
平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学的な表現の工夫について認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	図形や図形の構造に着目し，それらの性質を統合的・発展的に考察する力，数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づき判断しようとする。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする。

学習内容の概要	平面上の曲線、数学的な表現の工夫について学習する。
評価の観点・評価方法	規定に従い，定期考査および平常点等を「知識・技能」，「思考・判断・表現」，「主体的に学習に取り組む態度」の３観点で評価を行う。
使用教材	啓林館「数学Cα」，傍用問題集「アドバンス数学B+C」，Libry

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標
4	２次曲線	放物線 楕円 双曲線	7	放物線、楕円、双曲線が二次式で表せることおよびそれらの二次曲線の基本的な性質について理解できる。また、これらを相互に関連付けて捉えて考察することができる。
5		２次曲線の平行移動 ２次曲線と直線の共有点 ２次曲線と離心率	7	
6	媒介変数と極座標	曲線の媒介変数表示 極座標と極方程式	8	曲線の媒介変数表示について理解できる。極座標の意味および曲線が極方程式で表せることについて理解できる。
7		色々な曲線	6	
8	数学と日常生活	行列 離散グラフと行列 統計グラフ 統計グラフの応用	4	日常の事象や社会の事象を数学的にとらえ、コンピュータなどの情報機器を用いて曲線を表すなどして、媒介変数や極座標および複素数平面の考えを問題解決に利用したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりできる。
9			8	
10	受験対策授業	共通テスト対策	8	共通テストで７０％以上の得点を取ることができる。
11			8	
12			6	
1		私大・２次試験対策	6	志望校の合格に向けて取り組むことができる。
2			4	
3				

教科名	数学	科目名	数学C	単位数	1
対象学年 学科・コース	第３学年普通科 進学コース	履修形態	必修	授業形態	講義

学習の到達目標		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力
ベクトルについて理解するとともに，数学的な表現の工夫について認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	大きさと向きをもった量に着目し，演算法則やその図形的な意味を考察する力，図形や図形の構造に着目し，それらの性質を統合的・発展的に考察する力，数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

学習内容の概要	向きと大きさを持った量とその性質について学ぶ（平面上のベクトル・空間のベクトル）。
評価の観点・評価方法	規定に従い，定期考査および平常点等を「知識・技能」，「思考・判断・表現」，「主体的に学習に取り組む態度」の３観点で評価を行う。
使用教材	啓林館「深進数学C」，傍用問題集「Axis数学C」，Libry

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標
4	ベクトルの演習①	ベクトルとその演算	3	基礎・基本の確実な定着を目指す。
5		位置ベクトル	3	
6		空間ベクトル	4	
7	ベクトルの演習②	ベクトル分野共通テスト対策	4	ベクトルや内積の基本的な性質を用いて、平面図形や空間図形の性質を見出したり、多面的に考察することができる。また、数量や図形およびそれらの関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的にとらえて、ベクトルや内積の考えを用いて問題解決に向かうことができる。
8		ベクトル分野共通テスト対策	2	
9		ベクトル分野共通テスト対策	3	
10		ベクトル分野共通テスト対策	4	
11		ベクトル分野共通テスト対策	4	
12		ベクトル分野共通テスト対策	3	
1		ベクトル分野共通テスト対策	3	
2		ベクトル分野２次試験・私立大学対策	3	
3				

教科名	数学	科目名	応用数学	単位数	4
対象学年 学科・コース	第３学年普通科 特別進学コース（文系）	履修形態	必修	授業形態	講義

学習の到達目標		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力
数学ⅠⅡＡＢＣでの学習事項が定着している。	数学ⅠⅡＡＢＣの基本的な事項を用いて、共通テストレベルの問題を７割程度解くことができる。	自己の力を認識し、自分に合った難易度の問題を適切に選択し、学習に取り組むことができる。

学習内容の概要	数学ⅠAⅡＢＣ共通テストおよび私立大学入試対策
評価の観点・評価方法	規定に従い，定期考査および平常点等を「知識・技能」，「思考・判断・表現」，「主体的に学習に取り組む態度」の３観点で評価を行う。
使用教材	自主教材

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標
4	数学ⅠA復習	自主教材を用いて入試の基本事項の総復習を行う。	10	教科書の問および節末問題レベルの問題が解けるようになる。
5	数学ⅠA復習		16	教科書の問および節末問題レベルの問題が解けるようになる。
6	数学Ⅱ復習		16	教科書の問および節末問題レベルの問題が解けるようになる。
7	数学ＢＣ復習		14	教科書の問および節末問題レベルの問題が解けるようになる。
8	共通テスト対策	自主教材を用いて共通テスト対策を行う。	18	共通テストで70％以上の得点率が取れるようになる。
9				
10			16	
11			16	
12			12	
1			10	
2	国公立２次試験対策	過去問を用いて受験対策を行う。	16	志望校合格を勝ち取る。
3				

教科名	数学	科目名	数学研究	単位数	3
対象学年 学科・コース	第３学年 進学コース	履修形態	必修	授業形態	講義

学習の到達目標		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力
基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力を養う。また，数学と人間の活動との関わりに着目し，事象に数学の構造を見いだし，数理的に考察する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

学習内容の概要	数学ⅠA分野を中心に、演習を行なうことによって、総合的思考力を身につける。
評価の観点・評価方法	規定に従い，定期考査および平常点等を「知識・技能」，「思考・判断・表現」，「主体的に学習に取り組む態度」の３観点で評価を行う。
使用教材	自主教材

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標
4	数学ⅠＡ演習	数と式 集合と命題	9	既習分野において、定理や解法など、大学入試における基本的な考え方や重要事項を再確認する。 入試頻出問題のうち、基本～標準レベルの問題の解法を自ら導き出せるようになる。
5		２次関数	12	既習分野において、定理や解法など、大学入試における基本的な考え方や重要事項を再確認する。 入試頻出問題のうち、基本～標準レベルの問題の解法を自ら導き出せるようになる。
6		図形と計量	12	既習分野において、定理や解法など、大学入試における基本的な考え方や重要事項を再確認する。 入試頻出問題のうち、基本～標準レベルの問題の解法を自ら導き出せるようになる。
7		データと分析	12	既習分野において、定理や解法など、大学入試における基本的な考え方や重要事項を再確認する。 入試頻出問題のうち、基本～標準レベルの問題の解法を自ら導き出せるようになる。
8		場合の数と確率	6	既習分野において、定理や解法など、大学入試における基本的な考え方や重要事項を再確認する。 入試頻出問題のうち、基本～標準レベルの問題の解法を自ら導き出せるようになる。
9	数学ⅠA共通テスト対策　演習	数と式 集合と命題	9	既習分野において、定理や解法など、大学入試における基本的な考え方や重要事項を再確認する。 入試頻出問題のうち、標準～応用レベルの問題の解法を自ら導き出せるようになる。
10		２次関数 図形と計量 データと分析	12	既習分野において、定理や解法など、大学入試における基本的な考え方や重要事項を再確認する。 入試頻出問題のうち、標準～応用レベルの問題の解法を自ら導き出せるようになる。
11		場合の数と確率 図形の性質 整数の性質	12	既習分野において、定理や解法など、大学入試における基本的な考え方や重要事項を再確認する。 入試頻出問題のうち、標準～応用レベルの問題の解法を自ら導き出せるようになる。
12		共通テスト対策演習 （ⅠA全範囲）	12	既習分野において、定理や解法など、大学入試における基本的な考え方や重要事項を再確認する。 入試頻出問題のうち、基礎～応用レベルの問題の解法を自ら導き出せるようになる。
1		共通テスト対策演習 （ⅠA全範囲）	12	既習分野において、定理や解法など、大学入試における基本的な考え方や重要事項を再確認する。 入試頻出問題のうち、基礎～応用レベルの問題の解法を自ら導き出せるようになる。
2				
3				

教科名	数学	科目名	数学総合Ⅱ	単位数	2
対象学年 学科・コース	第３学年 総合選択コース	履修形態	必修	授業形態	講義

学習の到達目標		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力
基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力を養う。また，数学と人間の活動との関わりに着目し，事象に数学の構造を見いだし，数理的に考察する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

学習内容の概要	数学における基本的な概念や原理・ 法則を体系的に理解するとともに， 事象を数学化したり，数学的に解釈したり， 数学的に表現・ 処理したりする技能を身に付けるようにする。
評価の観点・評価方法	規定に従い，定期考査および平常点等を「知識・技能」，「思考・判断・表現」，「主体的に学習に取り組む態度」の３観点で評価を行う。
使用教材	「高校生の基礎数学トレーニング」（実教出版）

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標
4	数学ⅠA分野の演習	数の計算 比率と割合・比例と反比例	8	基礎・基本の確実な定着を目指す。また、生活の中での事象を数式を用いて表し解くことで、数学が生活の一部であることを認識する。
5		文字式・整式の計算 乗法公式による展開と因数分解	8	
6		無理数の計算 １次方程式	8	
7		２次方程式 不等式	8	
8		１次関数とグラフ ２次関数とグラフ	4	
9		図形と角・合同な図形・平行線と線分	8	
10		図形と面積・体積 三角比	8	
11		集合と要素・命題と証明 場合の数と確率	8	
12		表の読み取り・資料の整理	6	
1		さまざまな問題① さまざまな問題②	6	
2				
3				

教科名	理科	科目名	物理	単位数	3 単位
対象学年 学科・コース	第3学年 普通科特別進学コース理系選択	履修形態	必修	授業形態	講義
科目の目標	大学受験を目指す生徒に対し、自然科学の物理分野における一般的な教養を身につけさせることを目標にしている。				

学習の到達目標		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力
科学知識の習得や知識の概念的な理解や，観察・実験操作の基本的な技術を身に付けているか。	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる科学的思考力・科学的判断力・表現力などを身につけているか。	知識・技能の習得や科学的思考力・科学的判断力・表現力などを身につける過程において、主体的に学習に取り組んでいるか、自ら学習を調整しようとしているか。

学習内容の概　　要	自然界における現象を基本的な原理・法則に基づいていることを理解する。
評価の観点・評価方法	教務規定に従い評価する。
使用教材	教科書、実教出版 物理　問題集、実教出版 エクセル物理総合版、第一学習社 2026ビーライン物理

年　間　授　業　計　画

月	項　目	学 習 内 容	時間	学習の到達目標
4 5 6 7	3章 電気と磁気	1節 電荷と電場 ①静電気 ②電場 ③電位 ④コンデンサー 2節 電流 ①電流と抵抗 ②直流回路 3節 磁場と電流 ①磁場 ②電流が磁場からうける力 ③ローレンツ力 4節 電磁誘導と電磁波 ①電磁誘導の法則 ②自己誘導と相互誘導 ③交流 ④電磁波	40	電荷にはたらく遠隔力から電界の存在を理解し、電界のする仕事と位置エネルギーの関係から電位及び電位差を理解する。 コンデンサーの原理と働きを理解させる。導体を移動する自由電子から電流について理解する。 電気抵抗と回路を流れる電流の関係を理解する。電流の向きと大きさについてしっかりと理解する。電流や電圧の意味を確認しながらキルヒホッフの法則をきちんと理解する。 半導体について、電流が流れる仕組みや特徴を理解する。 磁場の定義を確認し、直線電流、円電流、ソレノイドの内部それぞれがつくる磁場について理解する。電流が磁場から受ける力を考察し、運動する荷電粒子が磁場から受ける力（ローレンツ力）について理解する。 ファラデーの電磁誘導の法則を理解させるとともに、交流の発生の仕組み、自己誘導と相互誘導、交流回路についても理解する。
8 9 10 11	4章 原子	1節 電子と光 ①電子 ②光の粒子性 ③電子の波動性 2節 原子と原子核 ①原子の構造 ②原子核 ③原子核反応 ④素粒子	48	光子を用いたアインシュタインの考えによって，光電効果が説明できることを理解する。X線の発生とその原理を学習し，特性X線や連続X線，最短波長などについて理解する。物質波について学習し，弱い光源によるヤングの実験をもとに，粒子性と波動性の二重性を理解する。 ラザフォードの原子模型、ボーアの原子模型について説明し、水素のエネルギー準位を理解する。放射線の種類と本体、放射能と放射線の性質と利用について説明し、理解する。原子核反応の前後で質量数の和と原子番号の和はそれぞれ変わらないことを理解し、質量欠損、結合エネルギーの定義を正しく理解する。素粒子とは何かを把握させ、その種類について説明し、理解する。
	終章	物理学が築く未来		
12 1 2 3	問題演習		20	演習問題を通じて現象を正しく把握し、法則のもつ本来の意義を十分理解する。 基本から応用まで取り組むようにする。

教科名	理科	科目名	化学	単位数	3単位
対象学年	第3学年 普通科特進(理系)	履修形態	必修	授業形態	講義

学習の到達目標		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力
科学知識の習得や知識の概念的な理解や，観察・実験操作の基本的な技術を身に付けているか。	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる科学的思考力・科学的判断力・表現力などを身につけているか。	知識・技能の習得や科学的思考力・科学的判断力・表現力などを身につける過程において、主体的に学習に取り組んでいるか、自ら学習を調整しようとしているか。

学習内容の概要	自然界における現象が基本的な原理・法則に基づいていることを理解する。
評価の観点・評価方法	教務規定に従い評価する。
使用教材	数研出版 「新編 化学」， 数研出版 「リードLightノート 化学」

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標
4	無機物質	非金属元素	10	元素を周期表に基づいて分類し、単体や化合物の性質を広く学ぶ。 金属元素は非金属元素とは大きく性質が異なる点に着目して学習する。また、金属元素を典型金属元素と遷移元素に分けその違いについても学ぶ。
5		典型金属元素	16	
6				
7		遷移元素	12	
8	有機化合物	有機化合物の分類と分析 脂肪族化合物	28	有機化合物の特徴や分類法、成分元素の検出、分子式を求める方法などを学ぶ。分子の構造に基づく有機化合物の考え方を把握する。 ベンゼン環をもつ化合物の種類とその性質を学ぶ。
9		アルコールと関連化合物		
10		芳香族化合物		
11	高分子化合物	高分子化合物の特徴 天然有機化合物	12	生体を構成する有機化合物の組成や構造と性質の関係を学ぶ。合成高分子化合物の組成や構造と性質の関係を学ぶ。
12		高分子化合物		
	総復習と共通テスト対策		10	模擬試験の過去問，共通テスト用問題集を中心に学習し，実力を養成する。
1	私立、国公立二次対策		20	国・公・私立大学の過去問を中心に学習し，より深い内容を理解する。
2				
3				

教科名	理科	科目名	生物	単位数	3 単位
対象学年 学科・コース	第3学年特進 理系生物選択	履修形態	必修	授業形態	講義

学習の到達目標		
知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力
科学知識の習得や知識の概念的な理解や，観察・実験操作の基本的な技術を身に付けているか。	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる科学的思考力・科学的判断力・表現力などを身につけているか。	知識・技能の習得や科学的思考力・科学的判断力・表現力などを身につける過程において、主体的に学習に取り組んでいるか、自ら学習を調整しようとしているか。

学習内容の 概　　要	教科書の内容に準じた知識の習得と、自然科学の探究に必要な思考力を問う。
評価の観点・ 評価方法	教務規定に従い評価する。
使用教材	教科書、　数研出版　生物 問題集、　数研出版　改訂版リードLightノート生物

年　間　授　業　計　画

月	項　目	学 習 内 容	時間	学習の到達目標
4 5 6	第4編 生物の環境応答	第5章　動物の反応と行動 1. 刺激の受容 2. ニューロンとその興奮 3. 情報の統合 4. 刺激への反応 5. 動物の行動	38	視覚は目の網膜で受容された光刺激の情報が、神経によって脳に伝えられて生じることを理解する。受容器の種類によって刺激を受ける仕組みがそれぞれ異なることを理解する。 ニューロンの興奮は細胞膜で生じる電気的な変化であり、イオンチャネルやポンプのはたらきで生じることを理解する。ニューロンに生じた興奮が軸索を伝わり、シナプスを介して次のニューロンに伝えられることを理解する。 人の神経系が末梢神経系と中枢神経系から構成されていることを理解する。ヒトの脳の構造とはたらきについて理解する。 効果器である筋肉の構造を理解する。筋肉が神経系から伝達された刺激を受け取って収縮するしくみを理解する。 動物の行動は遺伝的にプログラムされた生得的な行動と、経験によって変化する学習行動によって形成されることを理解する。
7 8 9		第6章　植物の環境応答 1. 植物の生活と植物ホルモン 2. 発芽の調節 3. 成長の調節 4. 器官の分化と花芽形成の調節 5. 環境の変化に対する応答 6. 配偶子形成と受精	47	植物は周囲の環境の変化を感知して、自らのからだを適切な時期に適切な状態へと変化させていることを理解する。環境からの情報伝達には植物ホルモンが働いていることを理解する。 植物の種子が周囲の環境を感知して休眠・発芽するしくみとその意義を理解する。 植物の成長は光や重力などの要因によって調節されていることを理解する。植物の成長には植物ホルモンが重要なはたらきをしていることを理解する。 植物は葉・茎・根・花といった器官からなり、これらの器官への分化を通して植物が成長していくことを理解する。植物の器官分化は成長の段階や環境の変化に応じて調節されていることを理解する。 植物が環境要因の変化に応じて、気孔を開閉し、二酸化炭素や水の出入りを調節するしくみを理解する。植物が病気や食害、生育に不適当な環境でどのように自身を守っているのかを理解する。 被子植物における配偶子の形成と受精のしくみを理解する。種子の形成や果実の熟成のしくみを理解する。
10 11	第5編 生物と環境	第7章　生物群集と生態系 1. 個体群の構造と性質 2. 個体群内の個体間の関係 3. 異なる種の個体群間の関係 4. 生態系の物質生産と物質循環 5. 生態系と人間生活		個体群の成長の仕方には個体群密度が影響していることを理解する。生物の生存曲線の型はその生物の年齢ごとの死亡率によって大別されることを理解する。 同種の動物が集まって暮らすことで生じる利益と不利益を理解する。動物の個体群内の個体同士の間でどのような関係が見られるか理解する。 生態系は異なる生物種からなる個体群の集まりで構成されており、個体群どうしは互いに深く関係していることを理解する。生物群集の中で多様な生物種が共存できるしくみを理解する。 上位の栄養段階の生物では利用できるエネルギー量に限りがあることを理解する。生態系における物質の循環とエネルギーの移動についてそれぞれの特徴を理解する。 生態系や生物多様性の保全に重要性を理解する。人間活動によって生態系に影響を及ぼす仕組みを理解する。
12 1 2 3		共通テスト対策 ２次試験対策	23	生徒個々の進路に応じ受験対策にあてる。

教科名	保健体育	科目名	体育	単位数	3
対象学年 学科・コース	普通科第3学年 男子	履修形態	必修	授業形態	実技

学習の到達目標		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力
各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につけるようにする。	自己や仲間の課題を発見し、合理的計画的な解決に向けて課題に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともにそれらを他者に伝えることができる。	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的計画的な実践に取り組もうとしている。また、健康の保持増進や回復及び健康な社会づくりについて主体的に取り組む姿勢をつくる。

学習内容の概要	運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。
評価の観点・評価方法	規定に準じ実技試験により評価
使用教材	

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標
4	体つくり運動	柔軟体操 筋力トレーニング 集団行動	9	集団行動の基本行動と身につけることができる
5	陸上	走力 （短距離・長距離） 投擲 跳躍	12	個人の運動能力をそれぞれ理解し、安全に留意し仲間と協力して取り組み、ひとりひとりの自己ベストを目指す。
6	陸上		12	
7	バレーボール	基本技術の習得・ゲーム アンダーハンドパス オーバーハンドパス サーブ アタック ゲーム	9	安全に留意し、お互い協力しながら練習とゲームを行い、バレーボールの基本技術を身につけるとともに、バレーボールの特性を理解する ゲームでは自身の役割を理解し取り組む
8	バレーボール		3	
9	バレーボール		12	
10	ソフトテニス	基本語術の習得・ゲーム 乱打	12	安全に特に留意し、自己の能力に応じた技術を習得する
11	バドミントン	基本語術の習得・ゲーム 乱打	9	安全に特に留意し、自己の能力に応じた技術を習得する
12	サッカー	基本技術の習得・ゲーム リフティング、パス ドリブル、ゲーム	9	安全に留意し、お互い協力しながら練習とゲームを行い、サッカーの基本技術を身につけるとともに、サッカーの特性を理解する ゲームでは自身の役割を理解し取り組む
1	バスケットボール	基本技術の習得・ゲーム ボールハンドリング パス,シュート ディフェンス ゲーム	9	安全に留意し、お互い協力しながら練習とゲームを行い、バスケットボールの基本技術を身につけるとともに、バスケットボールの特性を理解する ゲームでは自身の役割を理解し取り組む
2	バスケットボール		12	
3				

教科名	保健体育	科目名	体育	単位数	3
対象学年 学科・コース	普通科第3学年 女子	履修形態	必修	授業形態	実技

学習の到達目標		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力
各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につけるようにする。	自己や仲間の課題を発見し、合理的計画的な解決に向けて課題に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともにそれらを他者に伝えることができる。	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的計画的な実践に取り組もうとしている。また、健康の保持増進や回復及び健康な社会づくりについて主体的に取り組む姿勢をつくる。

学習内容の概要	運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。
評価の観点・評価方法	規定に準じ実技試験により評価
使用教材	

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標
4	体つくり運動	柔軟体操 筋力トレーニング 集団行動	9	集団行動の基本行動と身につけることができる
5	陸上	走力 （短距離・長距離） 投擲 跳躍	12	個人の運動能力をそれぞれ理解し、安全に留意し仲間と協力して取り組み、ひとりひとりの自己ベストを目指す。
6	陸上		12	
7	バレーボール	基本技術の習得・ゲーム ボールハンドリング アンダーハンドパス オーバーハンドパス サーブ アタック ゲーム	9	安全に留意し、お互い協力しながら練習とゲームを行い、バレーボールの基本技術を身につけるとともに、バレーボールの特性を理解する ゲームでは自身の役割を理解し取り組む
8	バレーボール		3	
9	バレーボール		12	
10	バレーボール		12	
11	ソフトテニス	基本語術の習得・ゲーム 乱打	9	安全に特に留意し、自己の能力に応じた技術を習得する
12	バスケットボール	基本技術の習得・ゲーム ボールハンドリング パス、シュート ディフェンス、ゲーム	9	安全に留意し、お互い協力しながら練習とゲームを行い、バスケットボールの基本技術を身につけるとともに、バスケットボールの特性を理解する ゲームでは自身の役割を理解し取り組む
1	バスケットボール		9	
2	バドミントン	基本語術の習得・ゲーム 乱打	12	安全に特に留意し、自己の能力に応じた技術を習得する
3				

教科名	外国語（英語）	科目名	英語コミュニケーションⅢ	単位数	4
対象学年 学科・コース	第３学年 特別進学コースαβ	履修形態	必修	授業形態	【講義・演習】

学習の到達目標		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力
学んだ知識や得た情報を理解・整理し、的確に使用することができる。	自分の考えや意見を日常的な英語表現を用いて表現することができる。	英語を用いて積極的に相手とのコミュニケーションや課題に向かう態度を身につけることができる。

学習内容の概要	学習指導要領に基づく「英語コミュニケーションⅢ」の内容のコミュニケーション活動とそれをさらに発展させた活動（プレゼンテーション等）を行う。
評価の観点・評価方法	英語学習の5領域（聞く、読む、話す[会話/発表]、書く）における諸活動や定期考査及び小テスト等の結果を基に、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で評価を行う。
使用教材	『MY WAY English CommunicationⅢ』（三省堂） 『MY WAY English CommunicationⅢ Workbook Advanced』（三省堂）／『必修英単語LEAP』（数研出版）

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標
4	Strategy for Listening and Reading 1・2	[S1]必要な情報を聞き取る/読み取る [S2]意味のまとまりごとに理解する	12	[L]Spelling Bee(会話)Green Roofs(ニュース)を聞き取る[R]Blended Words(ブログ)London－National Park City(新聞記事)を読み取る
5	Strategy for Listening and Reading 3・4	[S3]キーワードや内容語から概要を把握する[S4]資格情報を利用して聞き取る/読み取る	16	[L]Robotic Pets(会話)Backwheat in the World(講義)を聞き取る [R]Flying Cars(雑誌記事)Insects:Food for the Future(ネット記事)を読み取る
6	Strategy for Listening and Reading 5・6	[S5]論理の展開を把握する(列挙・例示)[S6]論理の展開を把握する(原因・結果)	16	[L]May Day(プレゼン)Mere Exposure Effect(講義)を聞き取る [R]Dragon Boat Racing(発表)Placebo Effects(雑誌記事)を読み取る
7	Strategy for Listening and Reading 7・8	[S7]話の要点を理解する [S8]話者や筆者の意図を推測する	12	[L]Amazing Abilities of Animals(プレゼン)Actions for Saving Children(会話)を聞き取る[R]Magawa:The Mine-Detekuting Rat(ネット記事)A Reassuring Song(ブログ)を読み取る
8	Lesson 1	"Priceless" Café, "Priceless" Community 異文化・食・SDG s /新聞記事	4	必要な情報を読み取り、「値段のないカフェ」について理解する。値段が設定されていないものを買うことの利点欠点を話し合い考えを英文にまとめる。
9	Lesson 2・3	[2]Nihonium－A New Element Born in Japan科学/雑誌記事[3]Tea in Desert Climates比較文化/講義	16	[2]意味のまとまりを意識し読む。試行錯誤を繰り返すことの利点を話し合い考えを英文にまとめる。[3]話の要点をつかむことを意識し読む。お茶を飲むことの利点を話し合い考えを英文にまとめる。
10	Lesson 4・5	[4]The Benefits of Origami伝統文化/プレゼン[5]The Mysteries of English Spelling言語・歴史/ブログ	16	[4]列挙のディスコースマーカーに注意し読む。趣味がもたらす効果を話し合い考えを英文にまとめる。[5]例示のディスコースマーカーに注意し読む。英語の綴りや新しい表記を話し合い考えを英文にまとめる。
11	Lesson 6	A New Discovery in the Nasca Lines 異文化・歴史/雑誌記事	16	頻出する内容語から概要を把握しながら読み、ナスカの地上絵研究とAIの活用について理解する。日常生活でAIに期待することについて話し合い、考えを英文にまとめる。
12	Lesson 7	Today's Trash is Tomorrow's Treasure 環境・SDG s /ネット記事	12	必要な情報を読み取りながら、アイサト・シーセイさんのアップリサイクル活動について理解する。どのようなアップリサイクルに興味があるか話し合い、考えを英文にまとめる。
1	Lesson 8	Nap Time at School 日常生活/討論	8	原因・結果のディスコースマーカーに注意しながら読み、学校に昼寝の時間を導入することの是非を理解する。学校に関する話題について討論し、考えを英文にまとめる。
2	Lesson 9	Dog Tax 社会生活・動物/討論	16	話者の意図を推測しながら読み、犬税を導入することの是非について理解する。動物に関する話題について討論し、考えを英文にまとめる。

教科名	外国語(英語)	科目名	英語コミュニケーションIII	単位数	4
対象学年	第3学年進学コース	履修形態	必修	授業形態	講義・演習

学習の到達目標		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力	主体的に学習に取り組む態度
標準的な英語で書かれた英文や対話文を読んだり聞いたりしその話題について把握し、情報や考えを論理的に整理することが出来る。	日常で身近な事柄を聞いたり読んだりし、その内容に関する自分の意見を持つことが出来る。また自分自身や身近な日常の事柄について簡単な語句・表現・文法を用いて簡潔に相手に伝えることが出来る。	課題を自ら見つけ自律的に粘り強く学び続けようとしている。また他者とのコミュニケーションを積極的に取ろうとしている。

学習内容の概要	英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。
評価の観点 評価方法	1.［知識・技能]および[思考力・判断力・表現力］： 定期考査80％と小テスト20％ 2.［主体的に学習に取り組む態度］： 授業中の積極的に取り組もうとする姿勢と提出物
使用教材	教科書「VISTA English Communication III」（三省堂） ワークブック「VISTA English Communication III Workbook」（三省堂）

年 間 授 業 計 画

月	項目	学習内容	時間	到達目標
4	Lesson 1 English as an International Language	世界で使われる英語 ［be動詞・一般動詞］ ［勧めるときの表現］	12	国際言語としての英語について聞いて理解/読んで理解し本文の内容を伝えることができる。英語についての自身の思いを英語で伝えることが出来る。
5	Lesson 2 Digital Art	デジタルアートの技術 ［現在完了形］ ［賛成するときの表現］	16	デジタルアートについて聞いて理解/読んで理解し本文の内容を伝えることができる。デジタル技術について自身の考えを伝えることが出来る。
6	Lesson 3 Sports Unite People for Peace	スポーツがもたらす結束と平和 ［受け身］ ［質問を始めるときの表現］	16	南スーダンの平和に貢献する「国民約束の日」に関する本文を聞き、読み理解し伝えることができる。平和に必要だと思うことを伝えることが出来る。
7	Lesson 4 Let's Have a Picnic	ピクニックの歴史、健康促進効果 ［動名詞・不定詞］ ［同意を表すときの表現］	12	フランスや英国、日本におけるピクニックの歴史に関する本文の内容を聞き、読み理解し伝えることができる。海外の食文化について伝えることが出来る。
8	Lesson 5 Dresden Elbe Valley	世界遺産の価値と生活の関係 ［関係代名詞・関係副詞］ ［反対するときの表現］	4	ドレスデンエルベ渓谷が世界遺産リストから削除された経緯に関して聞き、読み理解し伝えることが出来る。訪れたい世界遺産について伝えることができる。
9	Lesson 6 Flowers from Life	命のバトンをつなぐ ［名詞を修飾する分詞］ ［グラフや統計を引用する時の表現］	16	動物の殺処分ゼロを目指すプロジェクトに関する内容を聞き、読み理解し伝えることが出来る。高校生活で印象に残っている活動について伝えることができる。
10	Lesson 7 Global Refgee Crisis	世界が抱える難民問題 ［比較級・最上級］ 「言い方をやわらげる表現］	16	難民問題の実態と国連の取り組みに関して聞き、読み理解し伝えることができる。プレゼンテーションの感想を伝えることができる。
11	Lesson 8 Dream Bigger, Go Further	植松努さんの生き方 ［形式主語it］ ［発言を強めるときの表現］	16	「無理」と言われながらも夢をかなえた植松氏に関する内容を聞き、読み理解し伝えることができる。英語学習と自分の夢とのつながりについて伝えることが出来る。
12	Enjoy Reading! The Little Prince	サン＝テグジュペリ 『星の王子さま』	12	名作を読み、内容を把握し、要約する。 印象に残った場面を伝える。
1	Enjoy Reading! The Little Prince	サン＝テグジュペリ 『星の王子さま』	8	名作を読み、隠された深い意味について意見交換する。 感想を書き発表する。
2	Enjoy Reading! After Twenty Years	O.ヘンリー 『20年後』	16	名作を、推理しながら読む楽しさを味わう。

教科名	外国語（英語）	科目名	論理表現Ⅰ	単位数	2
対象学年 学科・コース	第３学年 総合選択コース	履修形態	必修	授業形態	【講義・演習】

学習の到達目標		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力
学んだ基礎知識や得た情報を的確に使用することができる。	自分の考えや意見を日常的な英語表現を用いて表現できる。	他者とのコミュニケーションを図ろうする態度を身に着けることができる。

学習内容の概要	「論理・表現」の目標は、自ら考え、その考えを「英語で発信できる人」を育てること。「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「書くこと」の３つの領域で具体的活動を自立的に行う。
評価の観点・評価方法	英語学習5技能（聞く・読む・話す「やり取り」・話す「発表」・書く）における定期考査や小テストをもとに、【知識・技能】【思考力・判断力・表現力】【主体的な学習に取り組む態度】3観点で評価を行う。
使用教材	教科書「NEW FAVORITE　English Logic and Expresstion Ⅰ」, WORKBOOK Ⅰ（東京書籍2024年）

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標
4	Unit 1 Lesson 1 初めての食事	Speaking Interaction 留学生のホームステイ先での食事をモデルとした会話	6	褒めることができる 勧めることができる 断ることができる
5	Lesson 2 道に迷う	Speaking Interaction 留学生がホストシスターと道に迷ってしまった会話	8	提案することができる 依頼することができる 道順を説明することができる
6	Lesson 3 人物紹介 Lesson 4 体調が悪い	Speaking Prodution　先生の紹介 Speaking Interaction　熱を出しホストマザーに相談する	8	身近な人を紹介できる、注意を引くことができる 体調を伝えることができる、体調を尋ねることができる 指示・アドバイスをすることができる
7	Lesson 5 買い物 Lesson 6 行ってみたい場所	Speaking Interaction スーパーへ買い出し Writing 行ってみたい場所	6	描写することができる、相づちを打つことができる 希望を述べることができる、理由を述べることができる
8	Lesson 7 イベントに誘われる	Speaking Interaction 友達にイベントに誘われる	2	誘うことができる 誘いを受けることができる 誘いを断ることができる
9	Lesson 8 スクールカウンセラーに相談	Speaking Interaction 勉強が遅れて不安なことを相談	8	状況を説明することができる、手助けを申し出ることができる、助言・提案することができる、お礼や感謝を伝えることができる
10	Lesson 9　お気に入りを紹介 Lesson 10　待ち合わせに遅刻	Speaking Prodution　好きな本を紹介 Speaking Interaction 約束の時間に遅れて謝る	8	要約したり、感想や批評を述べることができる 相手に謝ったり、許したり励ましたりすることができる
11	Lesson 11 家庭でのディスカッション	Speaking Interaction ホームステイ先の家族と市バスの問題について話す	8	共感を述べることができる 残念な気持ちを述べることができる 解決策を提案することができる
12	Lesson 12 英字新聞に投稿	Writing 学校に対しての要望を英字新聞に投稿する	6	要望や主張を述べることができる 理由を述べることができる
1	Unit 2　Lesson 1 クラスでディベート①	Speaking Interaction 電子書籍と紙の書籍についてクラスで討論	4	理由を述べることができる 例を挙げることができる
2	Lesson 2 クラスでディベート②	Speaking Interaction 電子書籍と紙の書籍についてクラスで討論	8	相手の意見に反駁することができる 相手の意見を引用することができる

教科名	外国語	科目名	論理・表現 II	単位数	2
対象学年 学科・コース	3年進学コース	履修形態	必修	授業形態	【講義・演習】

学習の到達目標		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力
Build knowledge and expand on theEnglish the students already know.	Be able to think about everyday topics inEnglish. (Practical use)	Learning communication skills through everyday topics.

学習内容の概要	Express their own ideas in English relating to conversation, presentation and writing.
評価の観点・評価方法	Listening, speaking, presentation, reading will be scored through short tests and mid-term tests, and also final tests.
使用教材	New Favorite English Logic and Expression II（東京書籍）

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標
4	Unit 1Lesson 1-Talking aboutexchange programs	Discussing good and bad pointsfor living abroad.	6	Learning to listen and express feelings.
5	Lesson 2-DiscussingCultural differenceLesson 3-Volunteeractivities	Understanding culturaldifferences/Improving society	8	Giving one's opinion based on cultural differences/Social communication.
6	Lesson 4-Writing a fanletterLesson 5-Talking about　another culture	Communicating throughwriting/Opinions on other cultures	8	Writing in order to communicate/Talking about other cultures good and bad points(opinions)
7	Lesson 6-Looking forbooks in the library	Finding interesting books toread	6	Being able to communicate in order to find something
8	Lesson 7-Japanesebooks and theirtranslations	Explaining Japanese books andtheir translations	2	Explaining Japanese books to other people inEnglish
9	Lesson 8-Returningpurchased itemsLesson 9-Taking a taxi	Communication on servicerelated things	8	Being able to communicate for service
10	Lesson 10-Discussion oncommunicating andtranslation	Ways to be able tocommunicate around the world	8	Discussing the best ways for communication andtranslation
11	Lesson 11-Making apresentationLesson 12-Talking　about future job	Important points aboutpresentations/One's future dream job	8	The objective is to get a point across/Future occupational dream
12	Unit 2Lesson 1-Affirmativespeech, Negativerefutation	Affirmative speech withnegative response	6	Debating a positive approach for a topic/Responding in a negative way
1	Lesson 2-Negativespeech, Affirmativerefutation	Negative speech withaffirmative (positive) response	4	Debatiing in a negarive way/Responding in a positive way
2	Lesson 3-Negativesummary speech	Writing a negative speechabout something	8	Creating a negative/positive speech relating to asituation or idea.
3				

教科名	外国語（英語）	科目名	論理・表現III	単位数	3単位
対象学年 学科・コース	第３学年 特別進学コースαβ文系	履修形態	必修	授業形態	講義

学習の到達目標		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力
①適切な語彙や文法・表現を使って伝えることができる。 ② 十分な情報や考えを伝えることができる。	①主題を決め，様々な種類の文章を〔50~100語※程度で〕書くことができる。②文章の構成を意識しながら書くことができる。	社会的な話題や時事問題について書かれている説明や評論などを精読して，情報や考えなどの要点や詳細をとらえることができる。

学習内容の概要	①学習指導要領に基づく論理表現の内容。② ICTを活用して文化や英文などについて調べ、学習する。
評価の観点・評価方法	規定に従い、一学期・二学期とも、定期考査や小テストの【知識・技能】【思考力・判断力・表現力】考査点と【主体的な学習に取り組む態度】3つの観点で評価を行う。
使用教材	教科書「EARTHRISE English Logic and Expression III Advanced」, ワークブック（Suken Shuppan）

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標
4	Lesson 1	Coming to Japan	7	受け取ったメールへの返信を書く
5	Lesson 2	Online Shopping	7	注文した商品の不備を報告するとともに，その後の対応について質問するメールを書く
6	Lesson 3 Lesson 4	Preparing to Study Abroad 24-Hour Stores	12	①留学予定先の学校に懸念点を質問するメールを書く　②コンビニエンスストアの24時間営業の是非について意見を述べる
7	Lesson 5	Smart Agriculture	10	スマート農業の普及に関して意見を述べる
8	Lesson 6	Aiman, the Household Robot	4	ある人の人助けの経験を説明する
9	Lesson 7	Recipes	12	お好み焼きの作り方を説明する
10	Lesson 8	A Helping Hand	12	ある人の人助けの経験を説明する
11	Lesson 9	International Science Fair	12	高校生向けの科学イベントへの参加申込書を作る
12	Lesson 10	Future Career Plans	8	インターンシップへの応募書類を作る
1	Lesson 11	Media Reliability	12	情報の信頼性に関する資料の要点を整理するとともに意見を述べる
2	Lesson 12	Garbage Problems	12	ゴミ問題に関する資料の要点を整理するとともに意見を述べる

教科名	外国語（英語）	科目名	実用英語	単位数	2
対象学年 学科・コース	第３学年 総合選択コース	履修形態	必修	授業形態	【講義・演習】

学習の到達目標		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力
学んだ基礎知識や得た情報を的確に使用することができる。	自分の考えや意見を日常的な英語表現を用いて表現できる。	実際に英語を使おうとする態度を身に着けることができる。

学習内容の概要	基礎的な英文法の復習や高等学校における新出の英文法を学習する。
評価の観点・評価方法	英語学習5技能（聞く・読む・話す「やり取り」・話す「発表」・書く）における定期考査や小テストをもとに、【知識・技能】【思考力・判断力・表現力】【主体的な学習に取り組む態度】も3観点で評価を行う。
使用教材	**Zoom** English Grammar 23 lessons THIRD EDITION（第一学習社） 例文ワークノート （第一学習社）

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標
4	英語のしくみ Get Ready 1 L1～L 4	「…は~です」と「…は~します」、いろいろな文(1)(2)、文の型(1)(2)	6	肯定文・否定文・疑問文の英文の基本構造を理解し、さまざまな文を正しく作ることができる。
5	Get Ready 2 L5 L6	動詞の形 現在・過去 未来	8	動詞の現在形・過去形・未来形の形と使い方を理解し、時制に応じて正しく使い分けて簡単な英文が作れる。
6	L7 L8 L9～L10	現在完了 過去完了 助動詞(1)(2)	8	現在完了・過去完了の形と用法を理解し、また助動詞の基本的な意味や使い方を習得して、それぞれを適切に使い分けながら正確に英文を作成できる。
7	L11 L12	受動態(1)(2)	7	受動態の基本的な構造と用法を理解し、能動態との違いを踏まえて適切に使い分けることができる。また、さまざまな時制や文型で受動態を用いた正確で自然な英文を作成できる。
8	Get Ready 3	不定詞・動名詞・分詞	2	不定詞・動名詞・分詞の基本的な形と用法を理解し、それぞれの特徴や役割を踏まえて適切に使い分けることができる。また、文中での働きを意識しながら、自然で正確な英文を作成できる。
9	L13～L15 L16	不定詞(1)(2)(3) 動名詞	8	不定詞の基本的な形と用法（名詞的用法、形容詞的用法、副詞的用法）を理解し、動名詞との違いを踏まえながら適切に使い分けることができる。また、それぞれを用いて自然で正確な英文を構成できる。
10	L17～L18 L19～L20	分詞(1)(2) 比較(1)(2)	8	分詞の基本的な形と用法（現在分詞・過去分詞）を理解し、修飾語としての働きを踏まえて適切に使い分けることができる。また、比較級と最上級の基本的な構造と使い方を習得し、さまざまな文脈で正確かつ効果的に比較表現を用いて英文を作成できる。
11	Get Ready 4 L21～L22	後ろから名詞を修飾するパターン 関係詞(1)(2)	8	後ろから名詞を修飾する表現（分詞構文や関係詞節など）の基本的な仕組みを理解し、関係代名詞・関係副詞の使い方を含めて適切に使い分けることができる。また、これらを用いて情報を付加した複雑で正確な英文を作成できる。
12	L23 Optional L1 Optional L2	仮定法 接続詞 話法	7	仮定法の基本的な種類と用法（現在・過去・過去完了の仮定法）を理解し、条件や願望、非現実の状況を表現できるようになる。さらに、接続詞の種類と使い方を習得して、文と文を論理的につなげることができる。
1	Optional L3	名詞・冠詞・代名詞 形容詞・副詞・前置詞 さまざまな構文	5	名詞・冠詞・代名詞の基本的な用法と役割を理解し、適切に使い分けることができる。さらに、形容詞・副詞・前置詞の働きと用法を習得し、修飾関係や意味の違いを正確に表現できる。
2	Optional L4 Optional L6	形容詞・副詞・前置詞 さまざまな構文	5	形容詞・副詞・前置詞の基本的な用法と役割を理解し、それぞれの修飾対象や意味の違いを正確に使い分けることができる。さらに、倒置や強調構文、比較構文などのさまざまな構文の特徴と用法を習得し、文の意味や表現効果に応じて効果的に活用しながら、自然な英文を作成できる。
3				

教科名	商業	科目名	課題研究	単位数	3
対象学年 学科・コース	3年生 進学コース	履修形態	必修	授業形態	講義・演習

学習の到達目標		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力
職業・職種について体系的・系統的に理解し、自分の希望する職業・職種に必要な知識・技能は何かを考察し、それを身に付けるようにする。	自分の希望する職業・職種に必要な知識・技能を理解した上で、自分が身に付けなければならない知識・技能を習得し、それを表現できるようにする。	職業人として必要な知識・技能の習得に主体的に取り組むとともに、グループ学習の中で協働的に物事に取り組む姿勢を養う。

学習内容の概要	自分の希望する職業・職種に必要な知識・技能は何かを考察する。 自分の希望する職業・職種に必要な知識・技能を習得する方法や表現する方法をグループ学習を通じて考え発表する。
評価の観点・評価方法	定期考査において知識・技能を問う問題と、思考・判断・表現力を問う問題を区別して作成し、その得点率によって評価する。また普段の授業態度や小テスト、提出物、グループ発表等によって主体的に学習に取り組む姿勢も併せて評価する。
使用教材	自主教材

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標
4	職業・職種について	職業・職種について体系的・系統的に理解する	10	正しい職業観を身に付ける
5	職業・職種について	職業・職種について体系的・系統的に理解する	10	正しい職業観を身に付ける
6	職業・職種について	職業・職種について体系的・系統的に理解する	13	正しい職業観を身に付ける
7	自分の希望する職業・職種に必要な知識・技能は何かを学ぶ	職業・職種について、自分の進路に関連付けて考察する	10	自分の進路実現に向けて、必要な知識・技能は何かを理解する
8	自分の希望する職業・職種に必要な知識・技能について	職業・職種について、自分の進路に関連付けて考察する	7	自分の進路実現に向けて、必要な知識・技能は何かを理解する
9	自分の希望する職業・職種に必要な知識・技能について	職業・職種について、自分の進路に関連付けて考察する	12	自分の進路実現に向けて、必要な知識・技能は何かを理解する
10	自分の希望する職業・職種に必要な知識・技能について	職業・職種について、自分の進路に関連付けて考察する	12	自分の進路実現に向けて、必要な知識・技能は何かを理解する
11	自分の希望する職業・職種に必要な知識・技能を習得する方法や表現する方法について	自分に必要な知識・技能を習得する方法や、それらをどのように表現したらよいかを考察する	12	自分の進路実現に向けて、必要な知識・技能を身に付ける
12	自分の希望する職業・職種に必要な知識・技能を習得する方法や表現する方法について	自分に必要な知識・技能を習得する方法や、それらをどのように表現したらよいかを考察する	10	自分の進路実現に向けて、必要な知識・技能を身に付ける
1	グループ発表	自分と同じ職業・職種を目指すクラスメイトと意見交換をしながら相互理解をはかり、全体に向けて発表する	8	グループ学習における準備や発表を通して、主体的かつ協働的に物事に取り組むことの重要性を理解する
2			4	
3				

教科名	商業	科目名	課題研究	単位数	3
対象学年 学科・コース	３年生総合選択コース ビジネス関連選択	履修形態	必修	授業形態	講義・演習

学習の到達目標		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力
職業・職種について体系的・系統的に理解し、自分の希望する職業・職種に必要な知識・技能は何かを考察し、それを身に付けるようにする。	自分の希望する職業・職種に必要な知識・技能を理解した上で、自分が身に付けなければならない知識・技能を習得し、それを表現できるようにする。	職業人として必要な知識・技能の習得に主体的に取り組むとともに、グループ学習の中で協働的に物事に取り組む姿勢を養う。

学習内容の概要	自分の希望する職業・職種に必要な知識・技能は何かを考察する。 自分の希望する職業・職種に必要な知識・技能を習得する方法や表現する方法をグループ学習を通じて考え発表する。
評価の観点・評価方法	定期考査において知識・技能を問う問題と、思考・判断・表現力を問う問題を区別して作成し、その得点率によって評価する。また普段の授業態度や小テスト、提出物、グループ発表等によって主体的に学習に取り組む姿勢も併せて評価する。
使用教材	自主教材

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標
4	職業・職種について	職業・職種について体系的・系統的に理解する	10	正しい職業観を身に付ける
5	職業・職種について	職業・職種について体系的・系統的に理解する	10	正しい職業観を身に付ける
6	職業・職種について	職業・職種について体系的・系統的に理解する	13	正しい職業観を身に付ける
7	自分の希望する職業・職種に必要な知識・技能は何かを学ぶ	職業・職種について、自分の進路に関連付けて考察する	10	自分の進路実現に向けて、必要な知識・技能は何かを理解する
8	自分の希望する職業・職種に必要な知識・技能について	職業・職種について、自分の進路に関連付けて考察する	7	自分の進路実現に向けて、必要な知識・技能は何かを理解する
9	自分の希望する職業・職種に必要な知識・技能について	職業・職種について、自分の進路に関連付けて考察する	12	自分の進路実現に向けて、必要な知識・技能は何かを理解する
10	自分の希望する職業・職種に必要な知識・技能について	職業・職種について、自分の進路に関連付けて考察する	12	自分の進路実現に向けて、必要な知識・技能は何かを理解する
11	自分の希望する職業・職種に必要な知識・技能を習得する方法や表現する方法について	自分に必要な知識・技能を習得する方法や、それらをどのように表現したらよいかを考察する	12	自分の進路実現に向けて、必要な知識・技能を身に付ける
12	自分の希望する職業・職種に必要な知識・技能を習得する方法や表現する方法について	自分に必要な知識・技能を習得する方法や、それらをどのように表現したらよいかを考察する	10	自分の進路実現に向けて、必要な知識・技能を身に付ける
1	グループ発表	自分と同じ職業・職種を目指すクラスメイトと意見交換をしながら相互理解をはかり、全体に向けて発表する	8	グループ学習における準備や発表を通して、主体的かつ協働的に物事に取り組むことの重要性を理解する
2			4	
3				

教科名	商業	科目名	課題研究	単位数	3
対象学年 学科・コース	３学年普通科 総合選択アート群	履修形態	必修	授業形態	講義・実習

学習の到達目標		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力
芸術全般の基礎知識・技能の習得	実習を通し、思考力・判断力・表現力の習得	知識を身に着け、考え、実行

学習内容の概要	基礎的技術をもとに実習・制作を行います。
評価の観点・ 評価方法	１．【知識・技能】【思考力・判断力・表現力】定期考査と小テスト ２．【主体的に学習に取り組む態度】パフォーマンステストと授業中の取り組み
使用教材	実教出版「コンピュータデザイン」

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標
4	造形の基礎	デザインとは、何かを学ぶ	9	デザインがもたらすものを理解する
5	造形の要素	形態・色・材質感･空間・時間	13	造形の要素を理解する
6	造形の構成	構成の基本	11	数理的秩序・調和を理解する
7	観察から表現へ	観察 表現の課程と技法	7	観察から表現する
8	観察から表現へ	観察 表現の課程と技法	7	観察から表現する
9	メッセージと表現	記号による意味	11	表現アイデアの手法
10	身近な生活のデザイン	自分をデザインする	13	自分をデザインする
11	身近な生活のデザイン	学校をデザインする	9	学校をデザインする
12	身近な生活のデザイン	学校を情報化する	9	学校を情報化する
1	知らせるデザイン	広告ポスターを作る	9	作品完成・発表
2	知らせるデザイン	手紙をデザインする 学級新聞をデザインする	10	手紙をデザインする 作品完成・発表
3				

教科名	商業	科目名	ビジネス法規	単位数	2
対象学年 学科・コース	3年生総合選択コース ビジネス関連選択	履修形態	必修	授業形態	講義

知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力
ビジネスに関する法規について実務に即して体系的・系統的に理解するようにする。	法的側面からビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として法的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、法規に基づくビジネスに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

学習内容の概要	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、法規に基づくビジネスの展開に必要な資質・能力を養う。
評価の観点・評価方法	規定に従い，定期考査および平常点等を「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の３観点で評価を行う。
使用教材	実教出版「ビジネス法規」

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標
4	法の概要	ビジネスにおける法の役割 法の体系と解釈・適用	6	法の役割、体系、解釈・適用について理解し、具体的な事例と関連付けて考察する。
5	権利・義務と財産権	権利・義務とその主体 物と物権・債権 知的財産権	8	権利・義務と財産権について、また知的財産権について、法規と関連付けて考察する。
6	財産権の変動	契約 物の売買	8	企業活動に係る契約全般について、また物の売買について、法的根拠に基づいて考察する。
7	財産権の変動	物の貸借	6	企業活動に係る契約全般について、また物の賃貸について、法的根拠に基づいて考察する。
8	財産権の変動	不法行為	2	企業活動に関する不法行為について、法的根拠に基づいて考察する。
9	財産権の変動	不法行為 時効	8	企業活動に関する不法行為や時効について、法的根拠に基づいて考察する。
10	企業活動と法規	企業活動の主体 株式会社の特徴と機関 組織再編と清算・再建	8	企業活動に係る法規について、様々な事例と法規の関連性を見いだし考察する。
11	企業活動と法規 企業責任と法規	競争秩序の確保 法令順守と説明責任	6	法令順守と説明責任、企業統治の意義と重要性について理解し、具体的な事例と関連付けて考察する。
12	企業責任と法規	労働者の保護 消費者の保護 情報の保護	6	労働三法、消費者の保護に関する法規、企業が扱う情報の保護に関する法規について理解し、具体的な事例と関連付けて考察する。
1	紛争の解決と予防 税と法規	紛争の解決 紛争の予防 税の種類と法人の納税義務	8	公証制度や民事訴訟制度ついて理解し、具体的な事例と関連付けて考察する。法人や不動産に対する税の概要ついて理解する。
2	税と法規	法人税の申告と納付 消費税の申告と納付	6	税に係る法規について理解し、手続き等について法規と関連付けて考察し理解する。
3				

教科名	商業科	科目名	簿記Ⅱ	単位数	4
対象学年 学科・コース	３年生総合選択コース ビジネス関連選択	履修形態	必修	授業形態	講義・演習

学習の到達目標		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力
個人企業・株式会社において発生する取引の記録・計算・整理を行うための知識と技能を身につける。	取引の記録をもとに、決算書類の作成まで正確に行い、財政状態や経営成績の判断を行うための思考、判断力を身につける。	実社会に出てから必要となる技能であることを認識して、積極的に習得する姿勢を育む。

学習内容の概要	個人企業や株式会社において発生する取引の記録・計算・整理を行うための知識・技能を身につけるとともに、企業の財政状態や経営成績を判断するための基礎的な能力を習得する。
評価の観点・評価方法	定期考査において知識・技能を問う問題と、思考・判断・表現力を問う問題を区別して作成し、その得点率によって評価する。また普段の授業態度や小テストによって主体的に学習に取り組む姿勢も併せて評価する。
使用教材	標準検定簿記問題集（とうほう）など

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標
4	簿記とは 各種取引の記帳	手形取引の記帳 電子記録債権 クレジット売掛金 個人企業の純資産の記帳	13	約束手形を用いた取引の処理を習得する 電子記録債権を用いた取引の処理を習得する クレジット売掛金を用いた取引の処理を習得する 個人企業の純資産についての取引の処理を習得する
5	各種取引の記帳	個人企業の税金の記帳 ３伝票制による記帳と集計 手形の書き換え 不渡手形 営業外手形	15	個人企業の税金についての取引の処理を習得する ３伝票制による集計処理法を習得する 手形の書き換え・不渡手形・営業外手形に関する取引の処理を習得する
6	各種取引の記帳	その他の記帳 本支店間の取引 本支店財務諸表の合併	17	商品券や社会保険料等の取引の処理を習得する 本支店間取引の処理を習得する 本支店財務諸表の合併処理を習得する
7	各種取引の記帳	株式会社の設立・開業と株式の発行 当期純利益の計上と剰余金の処分。配当 株式会社の税務	14	株式会社における取引の処理を習得する
8	各種取引の記帳	固定資産の記帳	9	各種の固定資産の勘定科目を用いた処理を習得する
9	総復習	検定試験受検に向けて	17	検定試験全商２級受験に向けて模擬問題を解く
10	総復習	検定試験受検に向けて	17	検定試験全商２級受験に向けて模擬問題を解く
11	総復習	検定試験受検に向けて	17	検定試験全商２級受験に向けて模擬問題を解く
12	総復習	検定試験受検に向けて	12	検定試験全商２級受験に向けて模擬問題を解く
1 2	総復習	検定試験受検に向けて	13	検定試験全商２級受験に向けて模擬問題を解く
3				

教科名	商業	科目名	OA演習	単位数	3
対象学年 学科・コース	3年生総合選択コース ビジネス関連選択	履修形態	必修	授業形態	演習

学習の到達目標		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力
社会人として必要なコンピュータの知識と操作を習得する	身に付けたコンピュータの知識や操作を実践できる力を養う	ビジネスの諸活動が快適かつ意欲的に過ごせるよう学習する

学習内容の概要	文書作成、表計算、プレゼンテーションに必要な技術を身につける
評価の観点・評価方法	規程に従い、定期考査および小テスト等を「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の３観点で評価を行う。
使用教材	情報処理検定試験単元別模擬問題集(とうほう）、自主制作プリント等

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標
4	Excelによる表計算	・関数の利用 ・グラフの作成 ・ハードウェア・ソフトウェアに関する知識 ・通信ネットワークに関する知識 ・情報モラルとセキュリティに関する知識	7	・基本的な関数である合計、平均、最大、最小の使い方を理解する ・表を読み解き、適切なグラフの挿入ができるようになる ・表計算ソフトの操作だけでなく、コンピュータに関連する知識を身につける
5			11	
6			13	
7		検定対策	12	6月までの内容をふまえて模擬問題および検定過去問題に取り組み検定合格を目指す
8			5	
9			13	
10	Wordによる文書作成	タイピング練習およびビジネス文書作成	14	表計算の内容に比べ文字を打つ量、漢字への変換が多くなるため、タイピング練習によりキーボードに慣れさせ、あわせて編集機能について理解する
11		ビジネス文書作成	14	さまざまなビジネス文書を作成するとともに、発信日付や受信者名といった文書構成について理解させる
12	PowerPointによるプレゼンテーション資料の作成	基本操作及び図形、グラフの挿入	9	PowerPointによるスライド作成から基本的な編集、またプレゼンテーションの仕方について理解させる
1			5	
2			5	
3				

教科名	商業	科目名	ビジネスマナーⅡ	単位数	2
対象学年 学科・コース	3年生総合選択 生活関連選択	履修形態	必修	授業形態	講義

学習の到達目標		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力
ビジネスの様々な場面で役立つマナーに関する知識と技能を習得する	身につけた基礎知識を社会で適切に実践できる力を養う	実践的な人材を目指し、ビジネスの場で円滑に展開できる人物に近づく

学習内容の概要	秘書検定2級の内容を通じて働く上での必要な知識、技能等を身につける。実社会に出上で必要とされるマナーについて詳しく学ぶ。
評価の観点・評価方法	規程に従い、定期考査および小テスト等を「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の３観点で評価を行う。
使用教材	自主教材テキスト「ビジネスマナー」

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標
4	秘書検定2級対策	筆記問題対策 文書に関する問題 郵便に関する問題	6	2年次に学習した3級の範囲に加え、新たに出題される語句を説明し、具体例を挙げながら理解する。
5	秘書検定2級対策	筆記問題対策 言葉遣いに関する問題 慶弔に関する問題	8	
6	秘書検定2級対策	模擬問題を活用 過去問題を解く グループ学習	8	検定に向けて、過去問題を活用し幅広く復習する。場合によっては少人数のグループを組み、互いに意見を交わしながら主体的に取り組み理解する。
7	秘書検定2級対策	全範囲から厳選した問題に取り組む	6	秘書検定2級の全範囲の中から、特に今後の実社会で重要となる項目を厳選して取り上げ理解する。
8	仕事の進め方	来客応対の基本	2	来客を迎える際のモノと心の準備を理解する。
9	仕事の進め方	訪問のマナー 席次の基本 会議の基礎知識	8	訪問の仕方からあらゆる場所における席次、会議の種類、エチケットについて理解する。
10	仕事の進め方	ビジネス文書 ・文書の基本、書き方 ・社外文書の慣用句	8	前文、本文、末文と言った基本を習得し、分かりやすい文書の作成を理解する。
11	仕事の進め方	・ビジネスレター ・文書の整理、保管 ・封筒、葉書の書き方	6	更にビジネス文書の基本的なことを理解する。
12	仕事の進め方	職場の人間関係 ・良い人間関係を作る ・好かれる人になる努力	6	社会人として必要な言葉、行動、態度を理解する。
1	知っておきたい業務知識	給与 ・給与、賞与のしくみ 給与に関する税金	8	給与所得者となる自覚を促し基本的なことを理解する。
2	知っておきたい業務知識	保険 ・各種保険制度	6	社会人として必要な知識である保険制度について理解する。
3				

教科名	家庭	科目名	保育実践	単位数	2単位
対象学年 学科・コース	３年　総合選択コース 生活関連選択	履修形態	必修	授業形態	講義・実習

学習の到達目標		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力
子どもの表現活動や子育て支援について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	保育や子育て支援に関する課題を発見し、子どもを取り巻く環境の変化に対応した保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	保育の充実を目指して自ら学び、保育や子育て支援の実践に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

学習内容の概要	子どもの表現活動と保育・子育て支援と保育・保育の活動計画と実習
評価の観点・評価方法	・評価の観点 【知識・技能】表現活動の重要性や子育て支援の意義と役割を捉え、その特徴や課題などについて理解し、子どもの健やかな発達を促すことができるように、保育や子育て支援に必要な知識や技術を習得している。 【思考・判断・表現】子どもの育ちや子育て支援に関して思考を深め，課題を発見するとともに，子どもを取り巻く環境の変化に対応しながら子どもの健やかな発達を促すための保育について考え、よりよい保育を創造することによって，課題を解決できる。 【主体的に学習に取り組む態度】子どもたちの健やかな発達を保障するため保育の充実が不可欠であることを認識し、豊かな人間性を養い、広い視野をもちながら学ぶことができる。また、保育や子育て支援に必要な知識と技術を進んで習得し、習得した知識や技術を活用するとともに、他者と協働しながら主体的に学び続けることができる。 ・評価方法　規定に従い、観点別評価で行う
使用教材	保育実践(実教出版）、課題プリント

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標
4	１章　子どもの表現活動と保育	第１節　子どもの表現活動の面白さ 第２節　造形表現活動	6	・子どもの表現の面白さを楽しみ、子どもが安心して活動できる場所や時間の確保、人間関係を形づくることの重要性について理解する。 ・子どもの造形・描画表現が子どもの創造性を育てる上で重要な活動であることについて理解する。
5			7	
6	１章　子どもの表現活動と保育	第３節　言語表現活動	7	・絵本やお話に親しむことが子どもの創造力と思考力を高める活動であることを学び、言葉やイメージが豊かになるような援助の方法について考える。
7			7	
8	１章　子どもの表現活動と保育	第４節　音楽・身体表現活動	3	・子どもにとっての音楽・身体表現の重要性や、子どもが音楽に親しみ、歌を歌ったり、リズム楽器を使ったりする活動を援助する方法について理解する。
9	１章　子どもの表現活動と保育	第５節　情報手段などを活用した活動 第６節　表現活動の実際	8	・身近な事例を通して、子どもの発達や心身への影響を十分に考慮しながら、情報手段を保育に活用できる力を養う。 ・子どもの歌・手遊び・ダンス・幼児体操などにどのようなものがあるか調べ、実際に行い、理解を深める。
10	２章　子育て支援と保育	第１節　子ども・子育ての問題	8	・子どもと家族を取り巻く社会や環境の様々な変化や問題について学び、子育て支援の意義と役割について理解する。
11	２章　子育て支援と保育	第２節　子育て支援のための各種施設	8	・身近な地域の子育て支援関連施設ではどのような支援が行われているのか具体的な内容やその役割について理解する。
12	２章　子育て支援と保育	第３節　子育て支援の実際	6	・保育施設における保護者支援の方法、地域の子育て支援について具体的な事例を通して理解する。
1	３章　保育の活動計画と実習	第１節　保育の活動計画	6	・保育の活動計画の重要性について学び、子どもの発達や時期を考慮し、どのようなことを身に付けてほしいかという具体的なねらいや活動内容を設定し、部分的な活動計画の作成に取り組む。
2	３章　保育の活動計画と実習	第２節　保育実習	6	・保育実習における、一日の生活の流れの中の活動の一部分を計画立案する。 ・保育現場において、子どもや保育者の援助の様子を観察し、保育者の視点をもった保育実習を行う。 ・保育実習を通して課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫する。
3				

教科名	家庭	科目名	生活と福祉	単位数	3単位
対象学年 学科・コース	3年　総合選択コース 生活関連選択	履修形態	必修	授業形態	講義・実習

学習の到達目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力
高齢期にいたるまでの健康づくりについて考えさせ、具体的な事例を通して理解する。高齢者福祉に関する法規や制度・サービスについて具体的な事例を通して理解する。 自立生活支援と介護に関する基礎的な知識と技術を身につける。	福祉政策に関する課題を発見し、生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	地域の高齢者の生活に関心をもち、高齢者と積極的にかかわり、適切な生活支援や介護ができたり、福祉の充実、向上をめざしたりすることのできる能力と実践的な態度を身につける。

学習内容の概要	健康と生活、高齢者の自立支援、高齢者支援の法律と制度、介護・看護の実習
評価の観点・評価方法	・評価の観点 【知識・技能】健康、高齢化の現状、福祉の法制度、自立生活支援について理解し、実践できる技術を習得している。 【思考・判断・表現】多面的に福祉の現状を捉えて思考を深め、高齢者福祉の充実向上を目指して自ら課題を発見するとともに、家庭や地域の実情に合わせてより豊かな生活を創造することによって、課題を解決できる。 【主体的に学習に取り組む態度】人々の健康の保持増進と高齢者の生活の自立の実現を図るために、進んで学ぶ姿勢を持ちつつ、日常生活を健康的におくるために必要な食生活、運動習慣などについて総合的に捉えて、実現に向けて主体的に計画・行動することができる。また、習得した知識や技術を家庭や地域で積極的に活用することにより、福祉の推進に他と協働して取り組むことができる。 ・評価方法　規定に従い、観点別評価で行う
使用教材	生活と福祉(実教出版）、課題プリント

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標
4	第1章　健康と生活	第1節　健康に関する諸概念 第2節　ライフステージと健康づくり	10	・健康とはどのようなことかを理解する。 ・人生の各ライフステージで、健康のために考えて生活しなければならない内容を理解する。
5	第2章　少子高齢化の現状と高齢者の特徴	第1節　少子高齢化の現状 第2節　家族・地域の変化	12	・日本の少子高齢化が急速に進んでいることの問題点を理解する。 ・家族を構成する人数が少なくなることで、必要となってくる地域福祉を理解する。
6	第2章　少子高齢化の現状と高齢者の特徴	第3節　高齢者の心身の特徴 第4節　高齢者の病気	12	・加齢による心身の変化とその特徴を理解する。 ・高齢者の病気の特徴ついて理解する。
7	第2章　少子高齢化の現状と高齢者の特徴	第5節　高齢者に見られる主な疾患や症状 第6節　高齢者の生活課題と施策	9	・高齢者に慢性的にみられる疾患について理解する。 ・高齢者の経済的課題や事故予防について理解する。
8	第3章　高齢者の自立支援	第1節　人間の尊厳	3	・ノーマライゼーションの考え方について理解する。
9	第3章　高齢者の自立支援	第2節　高齢者介護の考え方 第3節　コミュニケーションと介護	12	・介護体制やリハビリテーションについて理解する。 ・視覚障害、聴覚障害、認知症がある人への介護方法を理解する。
10	第4章　高齢者支援の法律と制度	第1節　社会保障・社会福祉制度のしくみ 第2節　介護保険制度のしくみ	12	・社会保障・社会福祉の制度のしくみについて理解する。 ・介護保険制度のしくみについて理解する。
11	第4章　高齢者支援の法律と制度	第3節　様々な高齢者支援のしくみ 第4節　地域共生社会	12	・住宅や医療などさまざまな分野の支援制度について理解する。
12	第5章　介護の実習	介護実習	9	・体位変換、歩行介助、食事介助の方法を理解し、対応する力をつける。
1	第6章　看護の実習	看護実習	9	・窒息の予防、骨折の処置、脱水や熱中症への対応の方法を理解し、対応する力をつける。
2	第7章　生活支援	第1節　生活支援の考え方 第2節　レクリエーション	8	・衣食住の生活支援について、さまざまな状況に対応できるようにする。 ・レクリエーションの方法を理解する。
3				

教科名	家庭	科目名	フードデザイン	単位数	5単位
対象学年 学科・コース	3年　総合選択コース 生活関連選択	履修形態	必修	授業形態	講義・実習

学習の到達目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力
栄養，食品，献立，調理，テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに，関連する技術を身に付けるようにする。	食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し，食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	食生活の充実向上を目指して自ら学び，食生活の総合的なデザインと食育の推進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

学習内容の概要	調理の基本・食生活と健康・栄養素のはたらきと食事計画・フードデザイン実習
評価の観点・評価方法	・評価の観点 【知識・技能】栄養，食品，献立，調理，テーブルコーディネートなど，フードデザインに必要な要素を相互に関連付けて理解し，実践できる技術を習得している。 【思考・判断・表現】多面的に食生活の現状を捉えて思考を深め，食生活の充実向上を目指して自ら課題を発見するとともに，家庭や地域の実情に合わせてより豊かな食生活を創造することによって，課題を解決できる。 【主体的に学習に取り組む態度】人々の健康の保持増進と健全な食生活の実現を図るために，進んで学ぶ姿勢を持ちつつ，食材を適切に選択し作るところから食べるところまでを総合的に捉えて，主体的に計画・実践することができる。また，習得した知識や技術を家庭や地域で積極的に活用することにより，食育の推進に他と協働して取り組むことができる。 ・評価方法　規定に従い、観点別評価で行う
使用教材	フードデザイン(実教出版）、課題プリント

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標
4	2章　栄養素のはたらきと食事計画 6章　フードデザイン実習 （実習施設の使用状況により適宜実施）	2節　ライフステージと栄養	17	・各ライフステージで必要な栄養について理解する。 ・基礎的な行事食の調理について、計画し、作ることができる。
5	2章　栄養素のはたらきと食事計画 6章　フードデザイン実習	3節　食事摂取基準と食事計画	20	・日本人に必要な栄養素の量と摂取量のめやすを理解し、食事の計画を立てることができる。 ・基礎的な日常食の調理について、計画し、作ることができる。
6	3章　食品の特徴・表示・安全 6章　フードデザイン実習	1節　食品の特徴と性質	20	・穀類、いも類、砂糖、豆類、種実類、野菜類、くだもの類の特徴と調理性質を理解する。 ・郷土料理について、計画し、作ることができる。
7	3章　食品の特徴・表示・安全 6章　フードデザイン実習	1節　食品の特徴と性質	17	・きのこ類、海藻類、魚介類、肉類、卵類の特徴と調理性質を理解する。 ・日常食の調理について、計画し、作ることができる。
8	3章　食品の特徴・表示・安全 6章　フードデザイン実習	1節　食品の特徴と性質	6	・牛乳・乳製品、油脂類の特徴と調理性質を理解する。 ・日常食の調理について、計画し、作ることができる。
9	3章　食品の特徴・表示・安全 6章　フードデザイン実習	1節　食品の特徴と性質	20	・かんてん・ゼラチン、し好食品、調味料、加工食品、特別用途食品の特徴と調理性質を理解する。 ・日常食の調理について、計画し、作ることができる。
10	3章　食品の特徴・表示・安全 6章　フードデザイン実習	2節　食品の特徴と性質 3節　食品の選択と表示	20	・食品の生産の現状と流通方法について理解する。 ・食品の表示について理解し、適切に食品を選ぶことができるようにする。 ・日常食の調理について、計画し、作ることができる。
11	3章　食品の特徴・表示・安全 6章　フードデザイン実習	4節　食品の衛生と安全	20	・食中毒の特徴と症状を理解し、食中毒の予防ができるようにする。 ・食品添加物について理解する。 ・日常食の調理について、計画し、作ることができる。
12	5章　料理様式とテーブルコーディネート 6章　フードデザイン実習	1節　料理様式と献立	17	・日本料理、西洋料理、中国料理の様式を理解する。 ・行事食について、計画し、作ることができる。
1	5章　料理様式とテーブルコーディネート 6章　フードデザイン実習	2節　テーブルコーディネート	17	・和風、洋風、中国風のテーブルコーディネートについて理解し、コーディネートをすることができる。
2	7章　食育	1節　食育の意義と推進活動	6	・食育について理解する。 ・授業や日常生活を通して身につけた基礎的な調理技術を確認する。
3				

教科名	情報	科目名	課題研究	単位数	5
対象学年 学科・コース	普通科第3学年 総合選択コース 情報関連選択	履修形態	必修	授業形態	講義・実習

学習の到達目標		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力
情報の各分野について体系的・系統的に理解するとともに，相互に関連付けられた技術を身に付けるようにする。	情報産業に関する課題を発見し，情報産業に携わる者として解決策を探究し，科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。	情報産業に関する課題を解決する力の向上を目指して自ら学び，情報産業の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

学習内容の概要	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ，実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して，社会を支え情報産業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
評価の観点・評価方法	課題提出・小テスト等を通じ、規定に基づき観点別に評価を行う。
使用教材	学習プリント等

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標
4	Ｌｉｎｕｘ Ｃにて ソース作成 コンパイル デバックでの確認 など	プログラミングの 基礎基本操作	35	さまざまな分野で利用されているコンピュータの種類と特性を理解し，ハードウェアの機能と構成について学習する。
5				・データ表現、論理回路，半加算器や全加算器の機能について学習する。 ・CPUの基本的な仕組みや性能，命令の実行，メモリの種類，キャッシュを利用した高速化手法等について学習する。
6				・ハードディスクの構造や容量，アクセス時間について理解するとともに，ハードディスク以外の記憶装置についても学習する。 ・各種の入出力インタフェース，組込システムや電子タグ等について学習する。
7		アルゴリズムの基礎・応用	20	規格を標準化することの必要性や，各標準化団体の役割について学習する。
8		アルゴリズムＣ 基本プログラミング	55	・システムソフトウェアとアプリケーションソフトウェアとに分けてソフトウェアの種類と役割を学習する。 ・オペレーティングシステムの役割と特性について学習する。
9				・各種アプリケーションソフトウェアの種類と機能について学習する。 ・オープンソフトウェアの特徴や種類について学習する。
10				・情報コンテンツの概念や保護などについて学習する。 ・静止画像，動画，音声など情報コンテンツの作成に用いられるメディアの種類や特徴，ファイル形式等について学習する。
11				・情報システムの処理形態や利用形態について学習する。 ・コンピュータのシステム構成や性能，障害対策について学習する。 ・社会で情報システムがどのように使用されているか学習する。
12		作品制作	35	・ネットワークの基礎的な形態やケーブルの種類，LANのアクセス制御，インターネットの接続知識について学習する。 ・プロトコル，OSI参照モデルなどネットワークの接続や接続機器について学習する。 ・インターネットの概念，歴史，TCP/IP,サービスの種類について学習する。 ・ルーティングの役割や機能について学習する。
1				
2		作品発表	35	・データベースの基本的な概念や機能について学習する。 ・リレーショナルデータベースの基本事項，E-R図とデータ分析，さらにデータの正規化について学習する。 ・データベースの制御機能であるトランザクション処理について学習する。 ・検索エンジンについて学習する。
3				

教科名	情報	科目名	情報デザイン	単位数	4
対象学年 学科・コース	普通科第3学年 総合選択コース（情報）	履修形態	必修	授業形態	講義・実習

学習の到達目標		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力
情報伝達やコミュニケーションと情報デザインとの関係について体系的・系統的に理解するとともに，関連する技術を身に付けるようにする。	情報デザインの手法，構成，活用に関する課題を発見し，情報産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	情報デザインによる効果的な情報伝達やコミュニケーションの実現を目指して自ら学び，コンテンツやユーザインタフェースのデザインなどの構築に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

学習内容の概要	内容を大別すると次の4つの分野からなる。１）情報デザインの役割と対象、２）情報デザインの要素と構成、３）情報デザインの構築、４）情報デザインの活用について実習を中心に習得する。
評価の観点・評価方法	作品・課題提出を通じ、規定に基づき観点別に評価を行う。
使用教材	実教出版「コンピュータデザイン Photoshop & Illustrator」・学習プリント等

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標
4 5 6 7	情報デザインの役割と対象	・社会における情報デザインの役割 ・情報デザインの対象	52	具体的な事例を取り上げ，社会において情報デザインが果たす役割について理解する。 情報伝達やコミュニケーションの仕組みとそこで使われるコンテンツを理解する。
8 9 10	情報デザインの要素と構成	・情報デザインにおける表現の要素 ・表現手法と心理に与える影響 ・対象の観察と表現 ・情報伝達やコミュニケーションの演出	36	形態や色彩とその働きについて理解する。 造形や色彩が人間の心理に与える影響と，情報デザインへの応用について理解する。 対象を観察する方法と，その結果を表現する技術について理解する。 レイアウトや配色などを扱うとともに，意味や考えの演出についても理解する。
11 12	情報デザインの構築	・情報の収集と検討 ・コンセプトの立案 ・情報の構造化と表現	32	目的を明確にしてコンセプトを決める方法を理解する。 コンセプトに沿った情報の構造化と表現を理解する。
1 2 3	情報デザインの活用	・情報産業における情報デザインの役割 ・ビジュアルデザイン ・インタラクティブメディアのデザイン	24	製品やサービスの普及，操作性やセキュリティの確保において情報デザインが果たす役割について理解する。 視覚情報の提供について考慮したデザインを理解する。 双方向性について考慮したデザインを理解する。

教科名	情報	科目名	コンテンツの制作と発信	単位数	3
対象学年 学科・コース	普通科第3学年 総合選択コース（情報）	履修形態	必修	授業形態	講義・実習

学習の到達目標		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力
コンテンツの制作と発信について体系的・系統的に理解するとともに，関連する技術を身に付けるようにする。	情報社会におけるコンテンツの制作と発信に関する課題を発見し，情報産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	情報社会で必要とされるコンテンツの創造を目指して自ら学び，コンテンツの制作と発信に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

学習内容の概要	内容を大別すると次の5つの分野からなる。１）情報社会とコンテンツ、２）静止画のコンテンツ、３）動画のコンテンツ、４）音・音声のコンテンツ、５）コンテンツの発信について実習を中心に習得する。
評価の観点・評価方法	作品提出、定期考査を通じ、規定に基づき観点別に評価を行う。
使用教材・ソフトウェア	VOCALOID PowerDirector GaregeBand 各種学習プリント他

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標
4 5	情報社会とコンテンツ	コンテンツの役割 メディアの種類と特性 コンテンツの保護	21	具体的な事例を取り上げて扱う。 また，コンテンツの制作や保護に必要な理論や方法について理解する。
6 7	静止画のコンテンツ	静止画による表現 静止画の編集 静止画のコンテンツ制作	24	素材をコンピュータに取り込んで加工したり，素材そのものをコンピュータで作成したりするために必要な方法について身に付ける。
8 9 10	動画のコンテンツ	動画による表現 挿画の編集 動画のコンテンツ制作	24	
11 12	音・音声のコンテンツ	音・音声による表現 音・音声の編集 音・音声のコンテンツ制作	21	
1 2 3	コンテンツの発信	コンテンツ発信の手法 コンテンツの統合と編集 コンテンツの発信と評価	18	コンテンツを発信するための様々な手法について学ぶ。 複数の種類のコンテンツの統合と編集について学ぶ。 様々な機器や環境における表示の互換性などについて理解する。

教科名	美術	科目名	情報メディアデザイン	単位数	4
対象学年 学科・コース	普通科第3学年 総合選択コース アート関連選択	履修形態	必修	授業形態	講義・実習

学習の到達目標		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力
情報の視覚化及び伝達，交流，共有について理解を深めるとともに，専門的な技能を身に付けるようにする。	表現及び鑑賞に関する創造的な思考力，判断力，表現力等を育成する。	情報メディアデザインの可能性を追求する態度を養う。

学習内容の概要	内容を大別すると次の4つの分野からなる。１）情報デザインの役割と対象、２）情報デザインの要素と構成、３）情報デザインの構築、４）情報デザインの活用について実習を中心に習得する。
評価の観点・評価方法	作品・課題提出を通じ、規定に基づき観点別に評価を行う。
使用教材	実教出版「コンピュータデザイン Photoshop & Illustrator」・学習プリント等

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標
4 5 6 7	情報デザインの役割と対象	・社会における情報デザインの役割 ・情報デザインの対象	52	具体的な事例を取り上げ，社会において情報デザインが果たす役割について理解する。 情報伝達やコミュニケーションの仕組みとそこで使われるコンテンツを理解する。
8 9 10	情報デザインの要素と構成	・情報デザインにおける表現の要素 ・表現手法と心理に与える影響 ・対象の観察と表現 ・情報伝達やコミュニケーションの演出	36	形態や色彩とその働きについて理解する。 造形や色彩が人間の心理に与える影響と，情報デザインへの応用について理解する。 対象を観察する方法と，その結果を表現する技術について理解する。 レイアウトや配色などを扱うとともに，意味や考えの演出についても理解する。
11 12	情報デザインの構築	・情報の収集と検討 ・コンセプトの立案 ・情報の構造化と表現	32	目的を明確にしてコンセプトを決める方法を理解する。 コンセプトに沿った情報の構造化と表現を理解する。
1 2 3	情報デザインの活用	・情報産業における情報デザインの役割 ・ビジュアルデザイン ・インタラクティブメディアのデザイン	24	製品やサービスの普及，操作性やセキュリティの確保において情報デザインが果たす役割について理解する。 視覚情報の提供について考慮したデザインを理解する。 双方向性について考慮したデザインを理解する。

教科名	美術	科目名	マンガ基礎	単位数	3単位
対象学年 学科・コース	３学年普通科 総合選択アート群	履修形態	必修	授業形態	講義・実習

学習の到達目標		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力
芸術全般の基礎知識・技能の習得	実習を通し、思考力・判断力・表現力の習得	知識を身に着け、考え、実行

学習内容の概要	マンガの基礎・知識を実習を通して学びます。
評価の観点・ 評価方法	１．【知識・技能】【思考力・判断力・表現力】定期考査と小テスト ２．【主体的に学習に取り組む態度】パフォーマンステストと授業中の取り組み
使用教材	アイシー「漫画・イラストの描き方入門」

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標
4	マンガの基本	マンガの模写 ストーリーの作り方	11	漫画の道具がどのようなものがあるか学ぶ。 どんな漫画を描きたいか（プロット）を考える。
5	マンガの基本	マンガの模写 ストーリーの作り方	9	漫画を描く工程を実際に体験すること（漫画原稿の模写）で、道具の使い方や描き方を学ぶ。プロットを元に漫画の下書きの下書き（ネーム）を描く。
6	マンガ・イラストの実習	マンガの模写 マンガの下書き	14	漫画を描く工程の復習をする。１頁のオリジナル漫画を完成させる。既存の漫画を鉛筆で模写し、コマワリ、セリフ回しについて学ぶ。ネームを直す。
7	マンガ・イラストの実習	短編漫画の作成 マンガの下書き	9	お題に沿ったオリジナル漫画を１頁以上のものを作成し完成させる。投稿作品の下書きを半分、１頁はペン入れまで終わらせる。
8	マンガ・イラストの実習	マンガの下書き マンガのペン入れ	6	投稿作品の下書きを完成させる。 ペン入れを始める。
9	マンガ・イラストの実習	マンガのペン入れ	14	投稿作品の人物ペン入れを終わらせる。
10	マンガ・イラストの実習	効果や背景	11	投稿作品のベタ（黒塗り）背景を描く。
11	マンガ・イラストの実習	マンガの完成	9	投稿作品の効果、修正を行う。
12	マンガ・イラストの実習	短編漫画の作成	9	漫画の投稿を行う。 短編漫画の作成をする。
1	発表	発表	9	全体の講評をする。
2	発表	発表	7	自作品の振り返りを行う。
3				

教科名	美術	科目名	コミックアート	単位数	2
対象学年 学科・コース	３学年普通科 総合選択アート群	履修形態	必修	授業形態	講義・実習

学習の到達目標		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力
芸術全般の基礎知識・技能の習得	実習を通し、思考力・判断力・表現力の習得	知識を身に着け、考え、実行

学習内容の概要	実用的なコミックアートの技術を学びます。 基礎的技術をもとに実習・制作を行います。
評価の観点・ 評価方法	１．【知識・技能】【思考力・判断力・表現力】定期考査と小テスト ２．【主体的に学習に取り組む態度】パフォーマンステストと授業中の取り組み
使用教材	実教出版「商業技術」・アイシー「ART　KIT」マンガ・イラストの描き方

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標
4	コミックアート	実用的なアートを分野別にデザインする	6	ラフスケッチを制作する
5	色彩の応用	色彩見本の作製 造形学習	8	表現する喜び 色彩の大切さ 見本の作成
6	コミックアート	制作計画の作成	8	計画案の発表・計画案の見直し
7	小品の作成	複数の小品作成	6	複数の小品作成により、 完成作品の問題点を探り、改善する
8	小品見本発表	視覚学習	5	各自、見本発表
9	作品の見直し	作品の見直し	8	作品の最終決定
10	作品制作	漫画作品制作 ポスター シルバーアクセサリー選択	8	作品制作
11	作品制作	漫画作品制作	6	作品制作
12	作品制作	漫画作品制作	5	作品制作
1	作品完成・発表 レポート提出	漫画作品完成・発表 レポート提出	4	作品完成 発表（米子市美術館） レポート提出
2	レポート提出	レポート提出	8	レポート提出
3				